



ROHM Group Innovation Report 2012

持続可能な社会を実現するために私たちが常に心がけていること

編集方針

本レポート発行の目的

ロームは今、50年後のあるべき姿「NEXT50」の実現に努めています。これは、製品品質と経営品質の「革新 (innovation)」を通じて持続可能な社会の実現に貢献していく、ということです。そこで、この目標に向かっての進捗をステークホルダーの皆さまに報告し、ロームグループへの理解を深めていただくために「Innovation Report」を本年度から発行することとしました。

なおロームは、2001年度から「環境報告書」を発行し、2007年度からは「CSRレポート」に改めて2011年度まで発行しました。本レポートは、これらをさらに発展させたものです。

報告対象組織

ローム株式会社およびロームグループ各社
(国内・海外関係会社)

報告対象期間

2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)
一部、この期間前後の事象・取り組みも報告しています。

発行時期

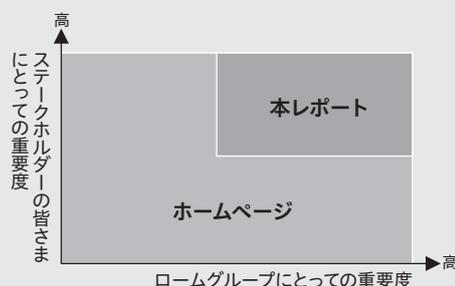
2012年6月
(次回:2013年6月予定 前回:2011年6月)

参考にしたガイドラインなど

- ・GRI「サステナビリティレポートガイドライン 第3.1版」
- ・財団法人日本規格協会「ISO26000:2010」
- ・環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」

他の報告媒体との関係

● **CSR(環境保全を含む)情報について**
ホームページには「CSRへの取り組み」として、本レポートに掲載していない情報も掲載しています。また、環境保全に関する詳細情報も「環境データブック(PDF)」として掲載しています。
本レポートとの関係は下図のとおりです。



● 業績・財務情報について

法定の各種報告書の他、「半期毎の報告書」「アニュアルレポート」を発行し、これらのPDFをホームページにも掲載しています。

企業情報

<http://www.rohm.co.jp/corporate/index.html>

CSRへの取り組み

<http://www.rohm.co.jp/csr/>

株主・投資家情報

<http://www.rohm.co.jp/financial/index-j.html>

目次

ROHM Group Innovation Report 2012

編集方針／目次	1
企業目的・方針	2
トップメッセージ	3

ローム・スピリット—自由闊達な風土

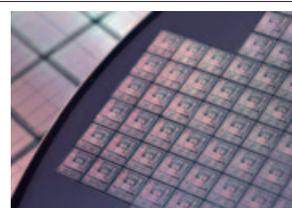
社員の意見を 経営に組み込む	7
-------------------	---



Product Quality Innovation

製品品質の革新	8
---------	---

ロームの製品～ハイライト	9
事業プロセス	
研究開発	15
生産／品質保証	16



ローム・スピリット—多様な人々との連携

国内外の大学との 産学共同研究	17
--------------------	----



Management Quality Innovation

経営品質の革新	18
---------	----

ハイライト(安定供給のための体制強化)	19
CSRパフォーマンス(ISO26000に準拠し報告)	
組織統治	23
人権／労働慣行	27
環境	29
公正な事業慣行	30
お客さまへの対応 (消費者課題)	31
コミュニティへの参画及び コミュニティの開発	32
CSRの目標・実績	33



ローム・スピリット—若手音楽家の育成

音楽文化への貢献	35
----------	----



会社情報	36
------	----

企業目的・方針

ロームは、社会から信頼され、期待される企業であるために、創業当初からかかげている企業目的をすべての社員に浸透させています。

企業目的

われわれは、つねに品質を第一とする。
いかなる困難があろうとも、良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、
文化の進歩向上に貢献することを目的とする。

さらにこの企業目的を達成するための方針が定められており、事業活動の指針となっています。

経営基本方針

社内一体となって、品質保証活動の徹底化を図り、適正な利潤を確保する。
世界をリードする商品をつくるために、あらゆる部門の固有技術を高め、もって企業の発展を期する。
健全かつ安定な生活を確保し、豊かな人間性と知性をみがき、もって社会に貢献する。
広く有能なる人材を求め、育成し、企業の恒久的な繁栄の礎とする。

品質管理基本方針

1. 社内標準化を全社的に推進し、データによる管理体制を確立する。
2. 総合的かつ継続的な調査活動を行い、新技術、新製品の開発に努める。
3. 企業活動のあらゆる分野において、統計的方法を積極的に活用する。
4. すべての工程において、品質保証の体制を確立する。
5. つねに生産方式の近代化を図り、製品のコスト低減に努める。
6. 材料、半成品の購入に際しては、契約によって納入者に品質保証をさせること。

教育訓練基本目標

1. 経営者、管理者、監督者、一般従業員たるを問わず、絶えず新しい知識の吸収に努め、広い視野に立って科学的に判断のできる人を育成する。
2. 知識と経験を生かし、その道の第一人者としての仕事に徹する人を育成する。
3. 逆境にあっても、つねに活路を見出し、積極的に目的を貫く人を育成する。
4. 全体の個であることに徹し、チームワークとしての成果を優先する人を育成する。

教育訓練基本方針

1. 全従業員は、あらゆる機会をとらえて自己の啓発に努力しなければならない。
2. あらゆる指導的立場にある者は、いかなるときも模範となる行動態度を自ら示さなければならない。
3. 教育訓練は、直接上司が日常業務を通じて行うものを主体とし、あわせて職場外教育訓練を実施する。
4. 各階層の長は、部下を正しく評価し、効果的な教育訓練を計画的かつ継続的に行う。
5. 各階層の長の評価は、部下に対する教育訓練の効果の程度によって行われることを原則とする。

創業以来、情報化社会の進展や価値観の多様化等、企業を取り巻く環境は変化していますが、これらの方針は不変かつ、事業活動の原動力となっています。

トップメッセージ

製品品質と経営品質の「革新」を通じて 持続可能な社会の実現に貢献します

◆ グループの総力を挙げて お客さまへの安定供給責任を果たします

2011年、タイにおいて大規模な洪水が発生しました。被害に遭われた皆さまに謹んでお見舞いを申し上げますとともに、被災地の復興を心から祈念いたします。このたびの洪水は現地社会に甚大な被害をもたらし、また、多くの製造業が生産拠点を置いていた工業団地にも被害が及びました。ロームグループにおいても、10月8日にアユタヤ県のLAPIS Semiconductor (Ayutthaya) Co., Ltd.、10月15日にパトムタニ県のROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.、ROHM Mechatech (Thailand) Co., Ltd. が操業を停止し、多くのお客さまに多大なご不便、ご迷惑をお掛けしました。心よりお詫び申し上げます。

生産拠点の操業停止という事態を受け、ロームグループでは、直ちにグループの総力を挙げて設備保全と復旧作業に取り組むとともに、水没した設備や金型を引き上げ、他の関係会社で生産を開始するなど迅速な対応に努めてまいりました。その結果、当初想定した

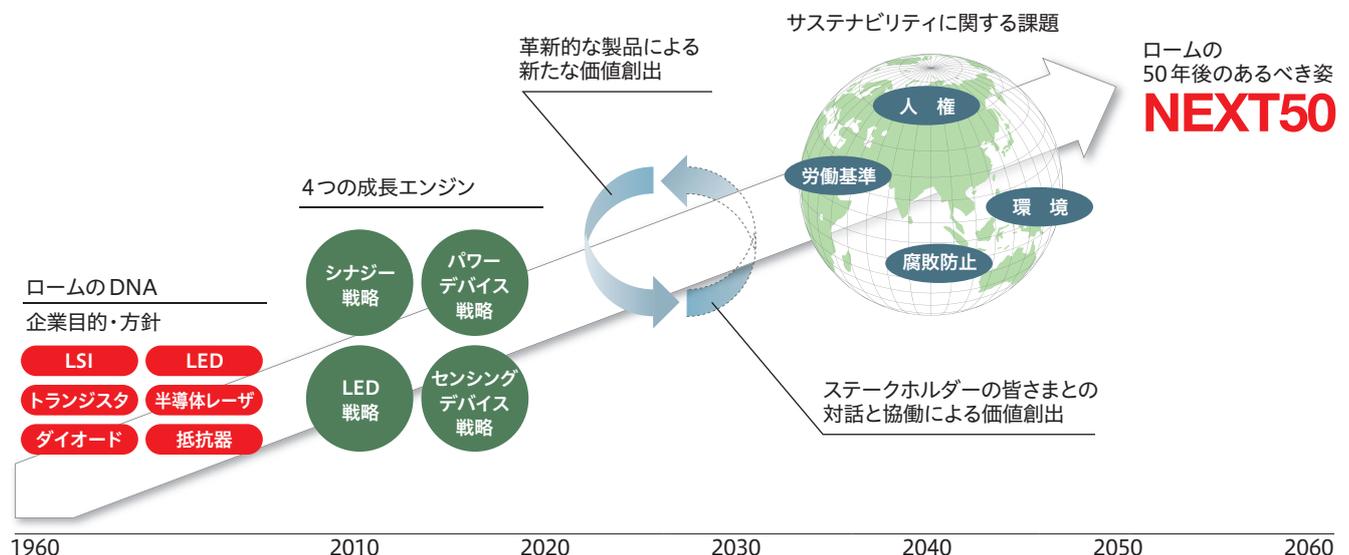
よりも2カ月早い2012年1月に洪水前の供給量を取り戻すことができました。

ロームグループでは現在、今回の災害を教訓としてグループの総力を挙げて安定供給体制の強化に努めております。まず、万が一の災害などに備えて「多拠点生産」を徹底することとし、全製品に関して複数の拠点で生産できる体制を構築しました。さらには全生産拠点を対象としたリスク診断を実施し、地震や洪水などの自然災害はもちろんのこと、あらゆるリスクを徹底的に検証し、対策を進めています。

◆ 4つの成長エンジン—— 高品質で革新的な製品で新たな価値を創出します

ロームは2008年の創立50周年を機に、50年後のあるべき姿を見据えた「NEXT50」を打ち出しました。その中で、持続的な成長によって社会に貢献し続けるために、4つの成長エンジン「シナジー戦略」「パワーデバイス戦略」「LED戦略」「センシングデバイス戦略」を設定しています。

「シナジー戦略」においては、アナログLSI技術に強み



を持つロームとデジタルLSI技術を得意とするラピスセミコンダクタ株式会社がシナジーによって新たな価値を創造することを目指しています。2010年9月には、インテル社向けのチップセットの開発を早期に完了するなど、戦略の成果が出始めています。

「パワーデバイス戦略」においては、デバイス技術とパワーLSIによる制御技術、そしてこれらを組み合わせたモジュール技術という3つの技術を融合し、高効率な電力変換を実現するパワー半導体の開発を推進しています。特に、従来のSi(シリコン)と比べて大幅な省エネ化・小型化が可能なSiC(シリコンカーバイド)を材料とするパワーデバイスの開発に力を注いでおり、2012年3月には世界で初めて“フルSiC”パワーモジュールの量産化に成功しました。今後、産業機器や太陽光発電システム、電気自動車やプラグインハイブリッド自動車などの分野で活用が進み、社会全体の省エネ化に寄与するものと考えています。

「LED戦略」においては、LED照明を中心に、LED素子からドライバLSI、電源モジュールまでLEDのトータルソリューションを提供することで社会の省エネルギー化に貢献することを目指しています。2011年6月に販売を開始した「AGLED(アグレット)」ブランドの家庭用LED照明・器具についても順調にラインアップを増やしています。

「センシングデバイス戦略」においては、スマートフォンや自動車用安全装置、セキュリティシステム、さらには医療機器など、さまざまな用途で需要が拡大しているセンシングデバイス市場のニーズに応えることを目指しています。2009年度にグループに加わったMEMS加速度センサ技術の先端企業であるKionix, Inc.のリソースも最大限に生かしながら、すでに世界トップレベルにあるラインアップをさらに強化すべく取り組んでいます。

また、これまで取り組んできた「自動車分野」に加え、2012年度からは、「産業機器分野」への取り組みを強化し、これまで以上に多様な分野でお客さまと社会のニーズに応えていく方針です。

ロームグループは、4つの成長エンジンを中心として、



ローム株式会社 代表取締役社長 澤村 諭

社会のあらゆる分野に貢献できる大きな可能性を秘めていると考えています。もちろん社会的課題を解決することは容易なことではありませんが、常識を打ち破る発想やアプローチで挑戦を続けていきたいと思えます。

◆ 経営品質を高め、サステナビリティに関する課題を解決することを目指しています

お客さまをはじめとして、世界中のステークホルダーの皆さまから選ばれる企業となるためには、高品質で革新的な価値を持つ製品を提供することが求められます。そのため、広く世界中に広がるバリューチェーンを見渡してサステナビリティに関する課題を特定したうえで、これらを解決していくために「経営品質」を高めていく必要があります。

そこで2011年5月、ロームは国連グローバル・コンパクト(UNGC)に加盟しました。UNGCが定める「人権」「労働基準」「環境」「腐敗防止」に関する原則をロームグループはもとより、お取引先さまにおいても実現いただくよう取り組み、バリューチェーン全体でCSR(企業としての社会的責任)を果たしていきたいと考えています。

また、2011年度には社会的責任に関する国際規格「ISO26000」を手引きとして、同規格が定める7つの中核主題ごとにロームグループの製品、事業、バリューチェーンを検証し、CSR重点課題(下記、P33ご参照)を選定しました。今後、ステークホルダーの皆さまの参画を得ながら、グループ全体でPDCA(Plan、Do、Check、Act)のサイクルを回し、これら課題の解決に向けて取り組んでまいります。

さらに、グループ全体のCSR活動を推進・管理する組織体制の強化も進めています。2011年6月にCSR委員会を新設し、あわせて社長直轄の組織としてCSR室を

設置しました。以降、この組織が中心となってロームグループ国内外関係会社のCSR活動を指導・管理しています。

2012年度には、こうしたグローバルなCSRマネジメントをさらに確かなものとするために、CSRに関する内部監査を開始しています。

◆ **ロームのDNA**——

チャレンジ精神で企業目的を実現してまいります

ロームは1958年、当時としては画期的に小型化された抵抗器のメーカーとして産声を上げ、1967年には半導体事業に参入し、日本企業で初めてシリコンバレーに

持続可能な社会を実現するためにロームグループが常に心がけていること

ロームグループのバリューチェーン※



「一貫体制」を構築しているから

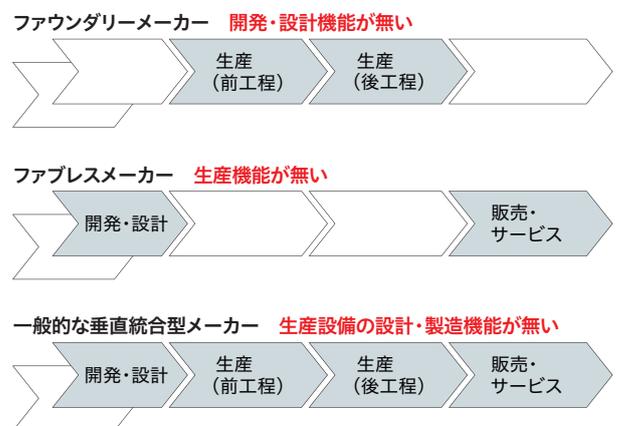
ロームグループのバリューチェーンの特徴は、製品の開発・設計から生産、販売・サービス、さらには生産設備の設計・製造まで手がける「一貫体制」です。だからこそ、社会的課題の解決に貢献する革新的な製品を提供することが可能になります。また、これら製品の品質を確保することと、安定的に供給することが重要な責任となります。さらに、このような「一貫体制」を世界中で支える人材の育成も重要な責任です。

ロームグループは、「製品品質の革新」と「経営品質の革新」を進めることで、これらの責任を果たしながらお客さまへの価値提供を目指しています。

ロームグループのCSR重点課題

- 高品質な製品の安定供給
- 革新的な製品による社会的課題の解決
- グローバルな人材育成

同業他社のバリューチェーン※



※バリューチェーン：原材料の調達や製品・サービスの製造・販売などを含む、ある企業の事業活動全体を「価値を付加・蓄積していく過程」と捉えた言葉。また、ある製品・サービスが、複数の企業やステークホルダー(利害関係者)の活動を通じて最終受益者に提供されるまでの一連の流れ全体を指す場合もある。

会社を設立するなどチャレンジを繰り返してきました。

ロームはこれからも、「われわれは、つねに品質を第一とする。いかなる困難があろうとも、良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、文化の進歩向上に貢献することを目的とする。」という企業目的を遂行するために、新たなチャレンジを続けてまいります。

2012年6月

Satoshi Sawamura

代表取締役社長 澤村 諭

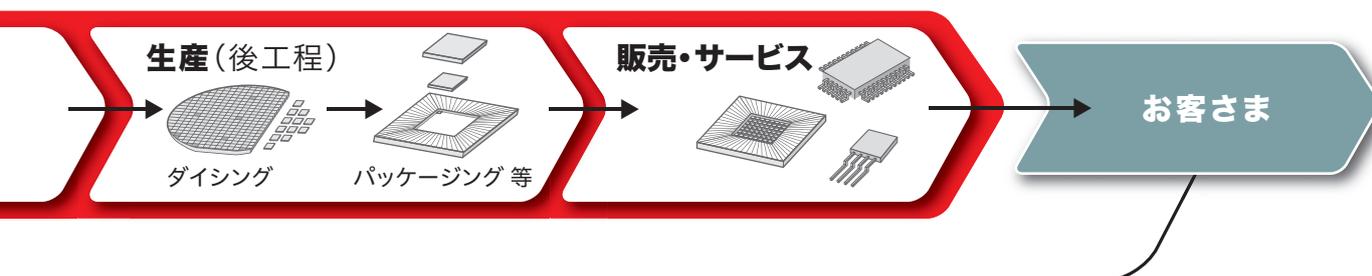
国連グローバル・コンパクト(UNGC)とは

企業をはじめとする組織体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって持続可能な発展を実現することを目指した国際的なイニシアティブ。UNGCを支持する企業は、「人権」「労働基準」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたる10原則を実現することが求められます。



ISO26000とは

国際標準化機構(ISO)から発行された社会的責任(SR)に関するガイダンス規格です。さまざまな組織体がSRを果たすための手引きと位置づけられています。



製品品質の革新

●「4つの成長エンジン」による社会的課題の解決

- 

お客さまが求める高機能なLSIを、ロームとラピスセミコンダクタ株式会社との連携によって迅速に開発・提供する
- 

温暖化防止・省エネルギーに貢献するパワーデバイスを開発・提供する
- 

温暖化防止・省エネルギーに貢献するLED関連製品を開発・提供する
- 

社会の安心・安全に貢献するセキュリティシステムなどに用いられるセンシングデバイスを開発・提供する

●製品品質の確保

設計、生産をはじめ、あらゆる企業活動において「品質第一」を基本として取り組み、お客さまが求める品質を確保する

経営品質の革新

●安定供給体制の強化

一貫体制メーカーとして、世界中のお客さまに、いかなる時でも、安定的に製品を供給することが重要であると考え、体制の強化に努める

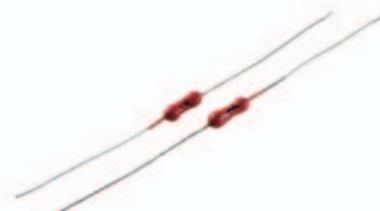
●生産に伴う環境負荷の低減

生産設備を内製しているため、環境負荷低減の自主努力が可能であり、CO₂排出量、化学薬品取扱量、水の投入量などについて、2020年度に向けた中期目標で定めた削減目標の達成を目指す

●グローバルなCSRマネジメント体制の強化

グローバルに事業を展開する企業として、国連グローバル・コンパクトの10原則や国際規格ISO26000に基づいて、バリューチェーン全体でCSRを果たしていくために体制の強化を図る

社員の意見を 経営に組み込む



ロームが創業時に開発した抵抗器

創業時から受け継がれてきた「ベンチャー精神」に基づく自由闊達な風土は、ロームの大きな特長の一つです。社長と社員が対話する場を多く設定し、参加者一人ひとりが自由な発想で会社の将来を構想し、忌憚のない意見を交わしています。

社長と社員との対話を 積極的に実施

ロームは、社員との対話を重要視しています。社員も重要なステークホルダーであり、また、社員の満足度を向上させることが他のステークホルダーの満足度を高めることにつながると考えているからです。

こうした考え方に基づいて、2010年4月以降、ロームでは社長と社員との対話を50回以上実施しており、これまでの参加人数は延べ350人に上ります。こうした対話機会において、社長からは会社が置かれている状況が伝えられます。社員からは現場で感じているさまざまな課題が提起され、皆でこれらを解決するためのアイデアを出し合います。

「職場環境の改善」や「顧客満足度をいかに高めるか」など、取り上げるテーマは多岐にわたるため、時には5時間以上も白熱した議論が続くことがあります。

社員の意見を生かして 開発・営業体制の改革が実現

社員から寄せられた意見は、実際に会社の仕組みや取り組みの改善に生かされています。

例えば、「お客さまの多種多様なニーズに応えるための体制の強化が必要」という意見が発端となり、新製品開発部署に市場別の商品戦略部門を新設することになりました。また、「世界中の多くの地域で事業を展開されているお客さまは、各地域で均一で上質なサービスを求めている」という意見に基づいて、営業体制を「地域別」から「お客さま別」に再編し、複数の地域に事業を展開されているお客さまを一つの営業グループが担当することとしました。

ロームでは、今後もこうした対話機会を多数設けて自由闊達な議論を重ね、社員の意見を積極的に経営に組み込んでまいります。



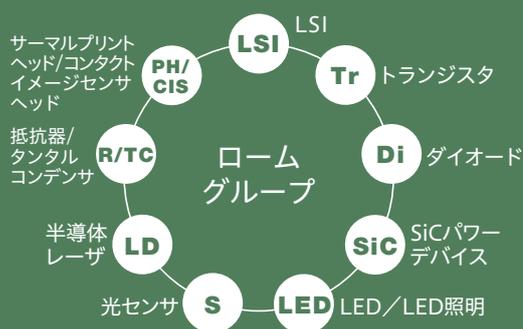
社長と社員の対話

Product Quality Innovation

製品品質の革新

取り組み戦略

製品分野 ————— 9-14p



多彩な製品分野に広がる充実した製品ラインアップで、お客さまの幅広いニーズにお応えしています。

注力分野



ロームグループでは、「4つの成長エンジン」を設定し、社会的な課題の解決に貢献できる革新的な製品の開発を目指しています。

研究開発 / 生産 / 品質保証 — 15-16p

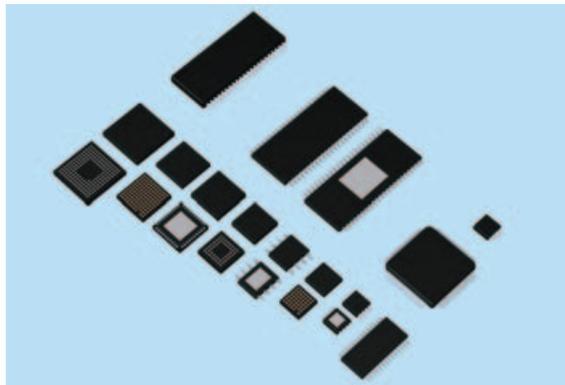
時代が求める新機能で お客さまと社会のニーズに応える

ロームグループは、お客さまのさまざまなニーズにお応えすることはもちろん、省エネルギーをはじめとする多様な社会課題の解決に貢献できる製品を提供しています。



LSI LSI

ロームのLSI開発は、無線・通信、パワー・グリーンエネルギー、車載、AV、ディスプレイといったさまざまな分野でお客さまのニーズに合わせた機能の実現を目指しており、その製品群は多岐にわたっています。また高付加価値システムLSIの開発を推進するとともに、ニーズを先取りしたプロセス技術の開発にも取り組んでいます。



LSI 生産品目

- EEPROM
- オペアンプ・コンパレータ
- リセットIC
- クロックジェネレータIC
- アナログスイッチ/ロジックIC
- D/Aコンバータ
- センサIC
- リニアレギュレータ
- スイッチングレギュレータ
- パワーマネジメントLSI
- 車載レギュレータ
- モータドライバ
- LED/LCDドライバ
- 情報機器/インタフェース用LSI
- 映像用LSI
- オーディオ用LSI



ワイヤボンディングライン



ケミカル メカニカル ポリッシュ



インライン ArF スキャニング ステッパ

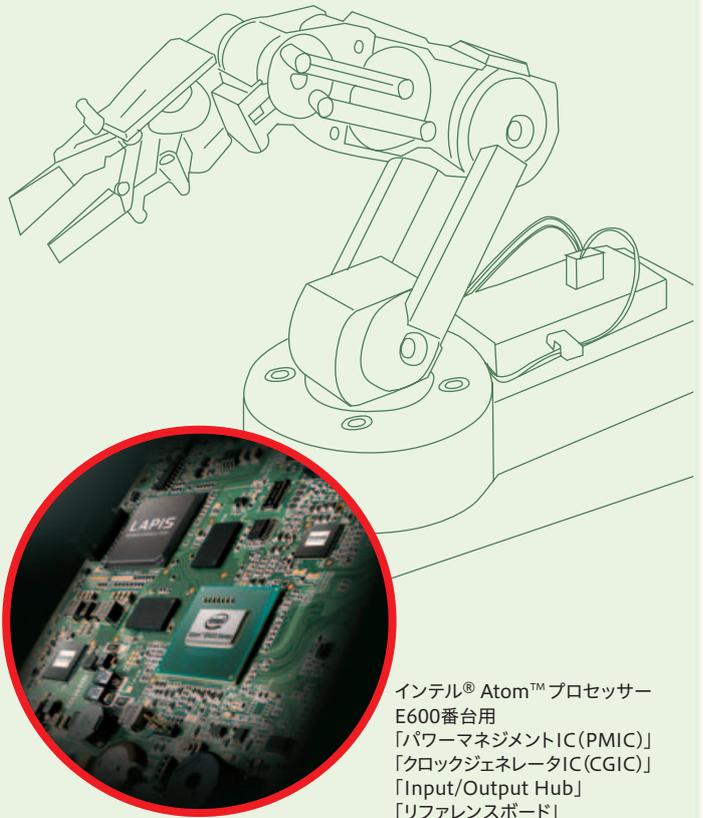
ハイライト

グループのシナジーを発揮してチップセットの開発を短期に完了

組込み機器向けにインテル社が開発したプロセッサ「インテル® Atom™ プロセッサ E600番台」は、汎用組込CPUボード、産業機器、カーインフォテイメント機器、WEB連携型IPメディアフォンをターゲットに、最高のパフォーマンスを発揮します。

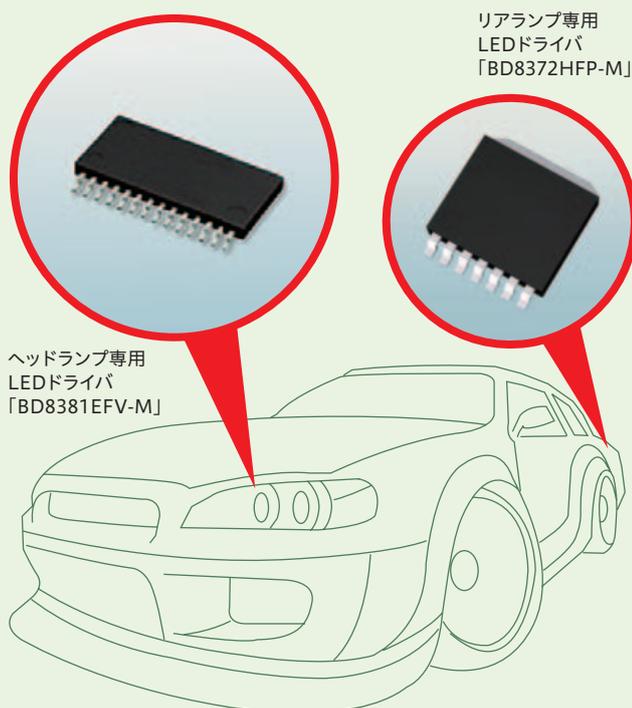
ロームと、ロームグループのラピスセミコンダクタ株式会社は、そのチップセットの開発メーカーとして選ばれました。パワー系LSIで世界をリードするロームと、通信系LSIなどに強みを持つラピスセミコンダクタ株式会社が双方の強みを発揮し、チップセットを構成するパワーマネジメントIC、クロックジェネレータIC、Input/Output Hub、リファレンスボードの開発を担いました。

開発の初期段階からインテル社の開発陣と密接に連携して設計を進めたことで、世界トップクラスの技術を持つ3社のシナジー効果を十分に発揮することができ、極めて完成度の高いチップセットを開発することに成功しました。



インテル® Atom™ プロセッサ E600番台用
「パワーマネジメントIC (PMIC)」、
「クロックジェネレータIC (CGIC)」、
「Input/Output Hub」、
「リファレンスボード」

自動車の視認性を高め、安全性確保に貢献するLEDドライバを開発



リアランプ専用
LEDドライバ
「BD8372HFP-M」

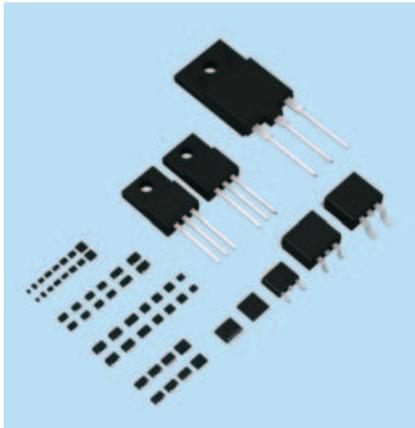
ヘッドランプ専用
LEDドライバ
「BD8381EFV-M」

ロームは、LEDを効率的に点灯するための駆動装置であるLEDドライバ回路において、重要な技術の特許を保有しています。またパネルバックライト用をはじめとして、さまざまな用途の製品をラインアップしており、2011年5月には車載用ヘッドランプLEDドライバを開発しました。特に欧州や北米では、自動車の視認性を高め、安全性を確保するために、LEDを使用したDRL(昼間認識用補助ヘッドランプ)搭載が義務付けられるケースが増加しています。ロームが開発したヘッドランプ専用LEDドライバ「BD8381EFV-M」は、こうしたDRL向けにオシレータ回路(発振回路)を内蔵することによりマイコンレスでのPWM調光※を実現、また故障を検出する各種保護機能の搭載や部品点数の削減により大幅な信頼性の向上を実現しています。

また、リアランプ専用LEDドライバ「BD8372HFP-M」も開発。LEDの輝度ムラを左右する出力電流の精度を $\pm 3\%$ と、従来品から大幅に向上させることに成功しています。

※ 高効率での光の制御を行う。

ロームの製品

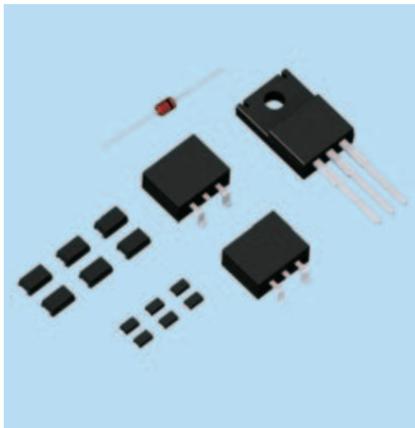


Tr トランジスタ

世界トップクラスの生産量を誇るロームのトランジスタは、省エネ・省スペース・高信頼性を開発コンセプトとしています。電界効果トランジスタMOSFET、バイポーラトランジスタ、ロームが世界で最初に開発した抵抗内蔵のデジタルトランジスタ、さらに複合トランジスタなど、特長ある製品群をラインアップしています。

Tr 生産品目

- MOSFET
- バイポーラトランジスタ
- デジタルトランジスタ
- 複合トランジスタ



Di ダイオード

ロームのダイオードは独自のデバイス技術を生かし、高信頼性・超小型・低損失を実現した多彩な製品をラインアップしており、その生産量は世界トップクラスです。また、小信号・ミドルパワーの分野で培った技術をパワー分野にも展開し、高品質なパワーショットキーダイオードやファストリカバリダイオードを製品化しています。

Di 生産品目

- ショットキーバリアダイオード
- 整流ダイオード
- ファストリカバリダイオード
- ツェナーダイオード
- スイッチングダイオード
- バンドスイッチングダイオード
- PINダイオード
- 検波ショットキーダイオード



SiC SiC パワーデバイス

スイッチングロスの低減や高温環境下での動作特性に優れ、次世代の低損失素子として期待されているSiC(シリコンカーバイド)製品も、ロームは世界に先駆けて量産しています。太陽光・風力発電などのコンバータ、プラグインハイブリッドカーや電気自動車の充電器、さらに産業機器やエアコン向けインバータなどに使用されることで機器の省電力化に貢献します。

SiC 生産品目

- SiCショットキーバリアダイオード
- SiC MOSFET
- “フルSiC”パワーモジュール



トランジスタの生産ライン



ダイオードの生産ライン



SiCのエピタキシャル装置

ハイライト

電力損失の大幅低減を実現する“フルSiC”パワーモジュールを量産化

電力損失を最大約47%低減

SiC(シリコン・カーバイド)は、省エネの切り札として電力会社や自動車メーカー、電機メーカーなどが大きな期待を寄せている半導体材料です。コンバータやインバータなどの電力変換器の中で電力制御に使用されるパワー半導体の材料を従来のSi(シリコン)からSiCに置き換えることで大幅な効率向上や小型化が見込めます。

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)では、2030年までにSiCデバイス適用による省エネルギー効果が5,390万キロリットル/年(原油換算)に及ぶと試算されています。

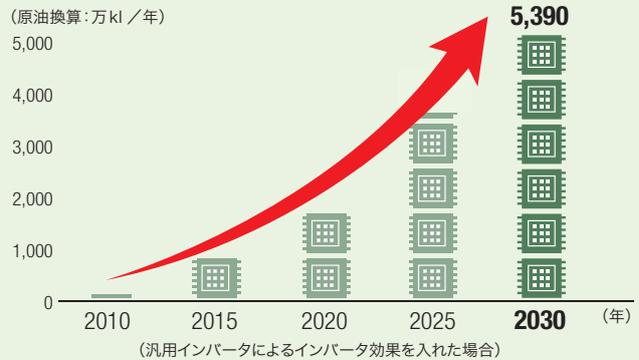
2012年3月には、ロームは世界中のメーカーが追い求めてきた“フルSiC”パワーモジュールの量産体制を世界で初めて確立しました。内蔵する半導体素子をすべてSiCとすることで大幅な省エネを実現しており、従来品に比べて電力損失を最大約47%低減することができます。

一貫生産体制によるSiC製品の供給

ロームグループでは、自動車、鉄道、産業機器、家庭用民生機器など、さまざまな場所で活躍する各種SiCパワーデバイスをウエハからパッケージまで一貫して生産できる体制を確立しています。

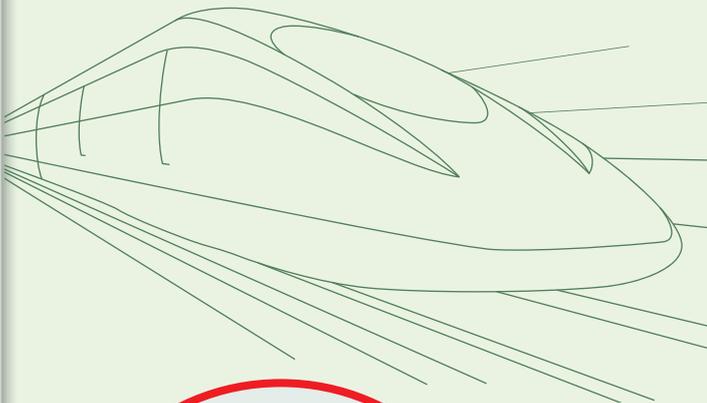
今後も、さらなる低消費電力を追求したSiCデバイスを開発・提供し、社会の省エネ化・温暖化の防止に貢献してまいります。

■ 2030年までのSiCデバイス適用による省エネルギー効果予測



出典: NEDO省エネローリングのFED再委託調査より

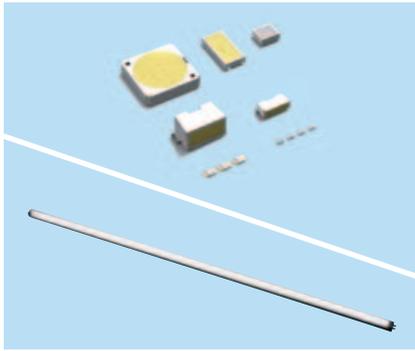
■ SiCパワーデバイスの適用分野



“フルSiC”パワーモジュール
[BSM100D12P2C005]



SiCパワーデバイスの活用が見込まれる太陽光発電

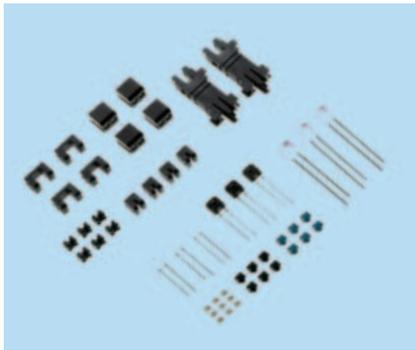


LED LED / LED 照明

ロームのLED(発光ダイオード)は、視認性・信頼性に優れ、高い信頼性が必要とされる車載においても数多くの実績があります。また、チップLEDから半導体まで手がけるロームの技術を結集させ、節電に貢献するLED照明を提供しています。

LED 生産品目

- チップLED
- LEDランプ
- LED照明
- LED 数字表示器
- LEDドットマトリックス



S 光センサ

ロームの光センサは、動作変化を見つめる電子の目としてあらゆる動きの検出に対応し、日々進化するお客さまの要望にお応えしています。受発光素子の生産のみならず、それらを組み込んだ完成品の生産まで一貫して担うことができ、きめ細かい対応が可能です。

S 生産品目

- 透過型フォトインタラプタ
- 反射型フォトセンサ
- 赤外発光ダイオード
- フォトダイオード
- フォトトランジスタ
- 4方向検出センサ

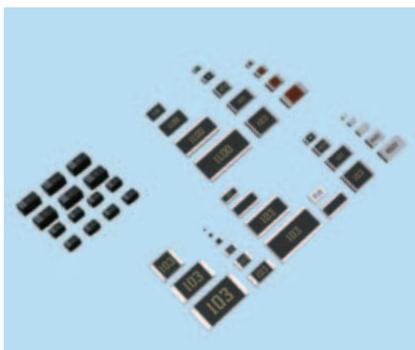


LD 半導体レーザー

業界トップクラスの生産量を誇るロームの半導体レーザー。製品間の高い互換性によって共通ラインでの生産を実現しているため、安定的な供給が可能です。また、低出力タイプから高出力タイプまで、幅広いラインアップを取り揃えています。

LD 生産品目

- 660/780nm 高出力2波長レーザー
- 660/780nm 低出力2波長レーザー
- 高速応答マルチビームレーザー
- 660nm 帯低出力レーザー
- 780nm 帯高速応答レーザー
- 780nm 帯低出力レーザー



R/TC 抵抗器 / タンタルコンデンサ

IT機器に欠かすことのできない角形チップ抵抗器やチップネットワーク抵抗器は、ロームが世界で初めて開発した製品です。多彩な製品ラインアップで小型、高信頼性などあらゆるニーズに応えています。また、小型・大容量が特長のタンタルコンデンサも提供しています。

R/TC 生産品目

- 角形チップ抵抗器
- 電流検出用 低抵抗チップ抵抗器
- 超低抵抗ジャンパーチップ抵抗器
- 高電力チップ抵抗器
- 耐サージ角形チップ固定抵抗器
- 高耐圧角形チップ固定抵抗器
- 耐硫化角形チップ固定抵抗器
- タンタルコンデンサ
- 導電性高分子コンデンサ



PH/CIS サーマルプリントヘッド / コンタクトイメージセンサヘッド

ロームのサーマルプリントヘッドは厚膜技術・薄膜技術・LSI技術の3つの基本技術で常に業界をリードし、世界トップクラスの生産量を誇ります。また、コンタクトイメージセンサヘッドは、光学技術・LSI技術によって小型軽量性と高性能を両立しています。

PH/CIS 生産品目

- [サーマルプリントヘッド]
- ファクシミリ用
- モバイルプリンタ用
- アミューズメント・ATM用
- [コンタクトイメージセンサヘッド]
- POS 端末用
- 高解像度モデル
- 8インチモデル
- 低インチモデル

ハイライト

LED照明で家庭やオフィスの省エネルギーに貢献

業界トップクラスの省エネを実現したシーリングライト

家庭用LED照明・器具を手掛けるグループ会社「アグレッド株式会社」は、2012年3月よりLEDシーリングライト6機種を新発売しました。

業界最高クラスの省エネ・節電性能を実現するとともに、自動的に人の生体サイクルにあった光に調整するサーカディアン照明モードを標準装備しています。

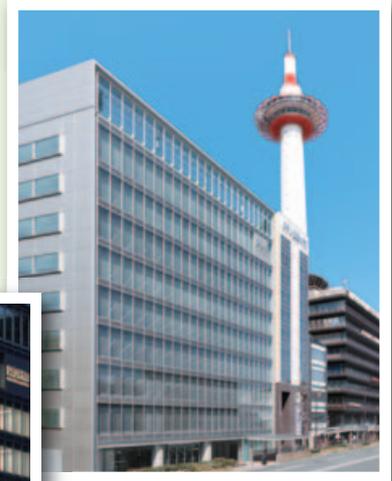


LEDシーリングライト
「AC401YC」(薄型タイプ)

全館LED照明を導入したグリーンビル

ロームは、2010年3月に開発・営業拠点である京都駅前ビルを大規模リニューアルしました。全館に自社製のLED照明を使用し、その他の対策とあわせて年間約30%の消費電力削減を実現しています。

他の対策として、高効率空調機器、太陽光パネル、屋上緑化、ダブルスキンカーテンウォールを採用しています。



ローム京都駅前ビル

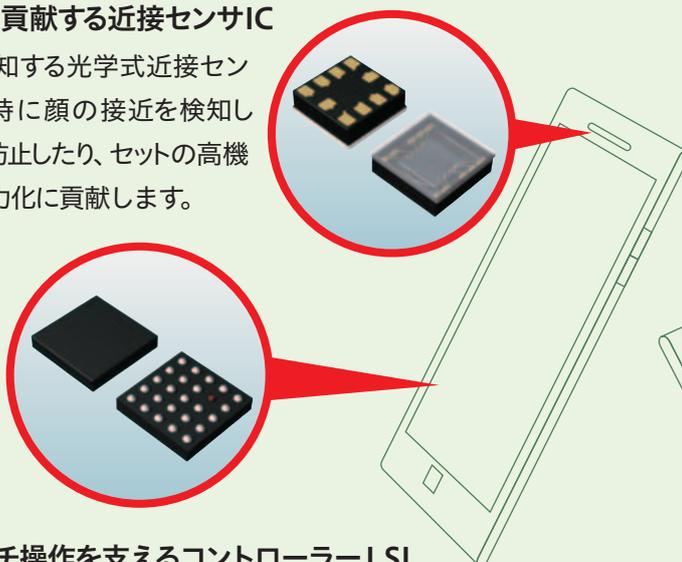


ローム京都駅前ビル(照明点灯時)

スマートフォンの省電力化と快適操作を支える多彩なセンサ関連製品

低電力化に貢献する近接センサIC

赤外線を感じ取る光学式近接センサは、通話時に顔の接近を検知して誤動作を防止したり、セットの高機能化や省電力化に貢献します。

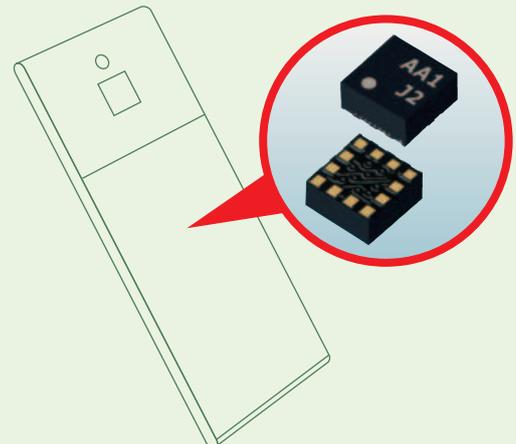


快適なタッチ操作を支えるコントローラーLSI

直感的な操作が可能なタッチスクリーン用のコントローラーLSIは、最も普及が進んでいる静電容量方式とスタイラスペン入力も可能な抵抗膜方式のLSIを提供しています。

低消費電力で高性能なデジタル3軸加速度センサ

グループ会社Kionix, Inc.のデジタル3軸加速度センサは、消費電力の低さと性能の高さが特長です。傾きや進行方向といった動きを感知します。



研究開発

次世代を見据えて

ロームグループは、「エレクトロニクスで社会に貢献する」ことを基本理念に、社会に役立つ製品づくりを進めています。

さらに、次世代を見据えた新技術開発においても、材料、設計技術、製造技術、品質向上に至るまで調和の取れた研究開発活動を展開し、“MORE THAN MOORE[※]”をキーワードに、まったく新しい技術の創造を目指しています。

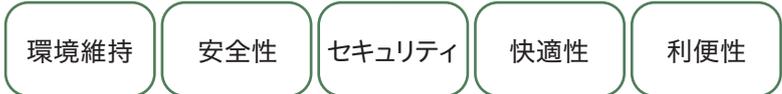
“MORE MOORE”から“MORE THAN MOORE[※]”へ

材料の革新による デバイス上での新機能創出

バイオマテリアル 化合物半導体
有機半導体 複合金属酸化物
ナノマテリアル 有機素材
強誘電体 SiC

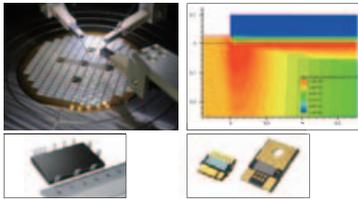
異分野技術融合による 高度複合デバイス実現

磁気 エレクトロニクス 光学
MEMS/NEMS Bio 医療
ナノテクノロジー フォトニクス
スピントロニクス メカニクス



※ MORE THAN MOORE: 「ムーアの法則」の微細化だけでなく、異分野技術の融合、新しい材料を取り入れた多様化、機能革新をすること。

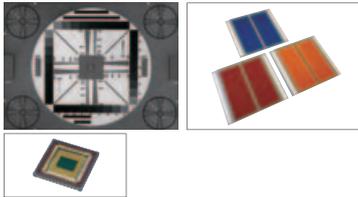
Power



新材料を積極的に取り入れることで、より一層の高効率・高機能・小型化を実現できる新デバイスの研究開発を進めています。

- SiC
 - ・SiC MOSFET
 - ・SiC SBD
 - ・SiC パワーモジュール
 - ・SiC トランスファモジュール
- GaN
- IPM(インテリジェント・パワー・モジュール)
- 高温耐性キャパシタ

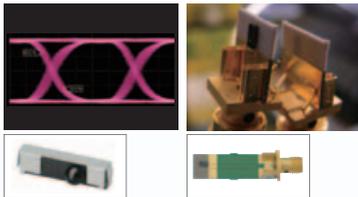
Sensing



省エネ、安全・安心を目標に、バッテリーレス、ワイヤレスセンサネットワークを実現する技術や、バイオテクノロジーを融合した技術の研究開発に取り組んでいます。

- 可視・近赤外イメージセンサ
- 遠赤外イメージセンサ
- X線イメージセンサ
- UVセンサ
- ストレスセンサ
- 脈波センサ
- 血液検査装置
- 血液分析チップ
- 色素増感型光電変換デバイス
- 電気二重層キャパシタ

Photonics & Optics



高速・大容量通信を実現するために、光半導体技術を基盤として、高い付加価値を持つ光機能の研究開発を進めています。

- 半導体レーザ
- 光通信モジュール
- 高出力フォトニック結晶レーザ
- テラヘルツ波発信/受信素子

ハイライト

新技術が広げる医療・健康分野の可能性

μTAS技術を用いた小型血液検査システムを開発し、販売を始めています。

指先や耳たぶから採取したわずかな血液で、数分間のうちに測定可能なため、新生児・小児・糖尿病患者にも使用でき、結果をすぐに確認できます。また、大規模な設備も不要です。



医療現場で本格的に活躍し始めました

2008年10月よりロームの技術を使ったシステムの販売を開始、2011年9月からはロームが上市、ローム製の装置と検査チップを医療現場へ送り出しています。

【取得許可】

- ・第二種医薬品 製造/製造販売業許可
- ・第二種医療機器 製造/製造販売業許可

生産／品質保証

一貫生産体制を構築

ロームグループでは、製品の設計はもちろん、生産プロセスを自社内で担う「一貫生産体制」を敷いています。

また、生産システムを自社開発している点も大きな特徴の一つです。生産品目ごとに専門化したエンジニアが設計から試作、保守管理までを担当し、幅広い対応を可能にしています。

「品質第一」を追求して

ロームグループでは、新製品の開発・設計、生産システムの開発、原材料の購入、そしてすべての生産プロセスにおいて細心の注意を払い、かつ、営業をはじめ管理部門に至るまでの全社員が「品質第一」を

追求し、日々努力しています。

そして、こうした活動を継続するための品質管理体制の維持・運用に努め、社員に対する徹底した教育を実施しています(P31ご参照)。

デザインセンター 開発・設計の現地化を推進

ロームグループでは、製品を開発・設計するにあたって、常にお客さまの要望をしっかりと把握し、要望にあった製品を迅速に提供することを大切にしています。

そのために、世界各地に開発拠点となるデザインセンターを設置し、お客さまに密着したグローバル体制を敷いています。また開発・設計者も現地化することで、より現地のニーズに合わせた新製品を生み出す「真のグローバル化」を推し進めています。

QAセンター

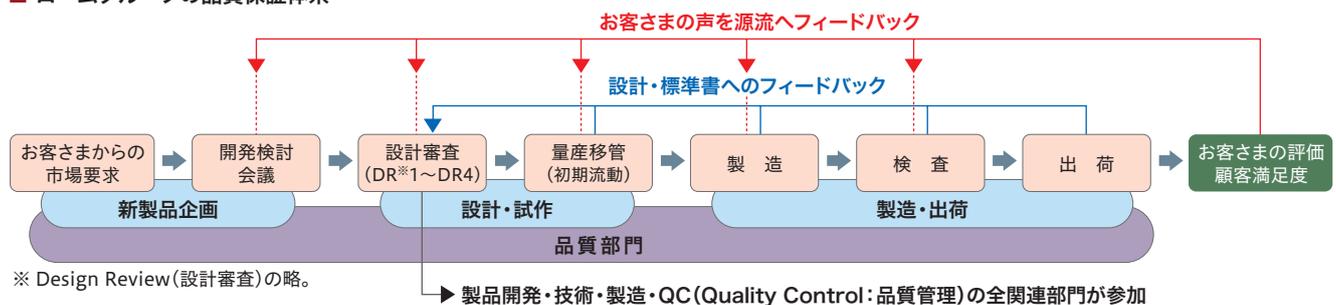
品質問題をあらゆる角度から分析

ロームグループでは、常にお客さまに最も近い所で品質対応を行えるよう、世界10カ所に「QA(Quality Assurance:品質保証)センター」と名づけた各種解析装置を備えた製品解析センターを設置しています。

技術に精通したスタッフが地域に密着した対応をさせていただくとともに、このQAセンターで過去の品質問題をあらゆる角度から細かく分析することで問題の真因を明らかにし、二度と同じ品質問題が起きないように対策を講じています。さらに、これらの真因対策を4M[MAN(人)、MACHINE(設備)、MATERIAL(材料)、METHOD(方法)]の観点から分析し、予防処置を含めた継続的な改善活動を進めています。

製品品質の革新

■ ロームグループの品質保証体系



■ お客さまに密着したグローバル体制



国内外の大学との産学共同研究

ロームは国内外の大学や研究機関と連携して積極的に研究開発を進めています。特に近年、清華大学をはじめ中国の各種研究機関と協力し、恒久的なパートナー関係を築くことで、有用な技術を開発し文化の進歩向上に向けて取り組んでいます。

研究機関、大学、異分野企業と協力

ロームは、文化や社会の進歩向上に貢献できる有用な技術を開発するためには、研究機関や大学、異分野企業と良き関係を築き、協力して取り組む必要があると考えています。

特に産学連携を推進するため、地元京都においては立命館大学、同志社大学、京都大学に「ローム記念館」を寄贈し、包括的な産学共同研究の推進を図っています。

中国・清華大学と包括的産学連携契約を締結

ロームグループでは、米国や中国など海外でも産学連携を積極的に進め、先端知の研究や各地のニーズに応えた製品の開発に取り組んでいます。

2006年4月には中国の清華大学と包括的産学連携契約を締結し、新原理(表面プラズモンセンサ)光素子の提案・検証や、中国デジタルTV規格用LSIの実現などの実績を上げてきました。

さらに、2010年より技術フォーラムを開催しており、2011年4月には清華大学の創立100周年を機会に、クリーンルームや国際会議場を有する「清華ローム電子工程館」を寄贈・開館しました。電子工程系60周年を迎えた2012年4月には、同工程館において「清華-ローム国際産学連携フォーラム2012(TRIFIA2012)」を開催し、来賓、学生、卒業生ら2,000人を超す来場者でにぎわいました。本館7Fには共同研究体制の基盤となる「清華ローム共同研究センター」を設立し、従来のインターンシップ受け入れだけでなく、ローム社員が駐在することによって人的交流・異文化理解に基づく技術開発と社会貢献を活性化してまいります。

現在、本センター組織を基軸に、「光デバイス」、「通信・放送」、「バイオチップ」、「POCT(Point of Care Testing)」、「パワーデバイス&システム」などの分野において数多くの共同研究プロジェクトが開始され、今後一層の交流成果が期待されています。



立命館大学ローム記念館
(2000年4月開設)



同志社ローム記念館
(2003年9月開設)



京都大学ローム記念館
(2005年5月開設)



清華ローム電子工程館(2011年4月開設)



「清華ローム電子工程館」の
オープニングセレモニー



清華-ローム国際産学連携フォーラム2012
(TRIFIA2012)

Management Quality Innovation

経営品質の革新

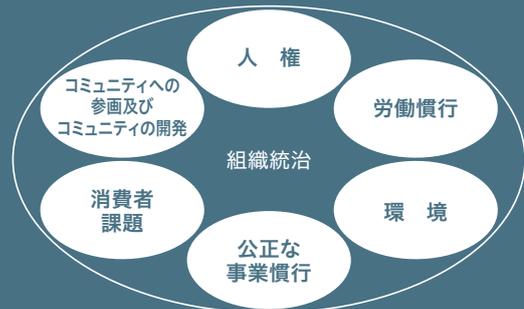
取り組み戦略

国連グローバル・コンパクトへの加盟 -24p



ロームは、国連
グローバル・コンパクト
に加盟しています。

ISO26000への取り組み —— 23-34p



ロームグループではISO26000に基づいたグローバルなCSRマネジメントを目指しています。そのために体制の強化を進めるとともに、ISO26000に準拠し、バリューチェーンを見渡して重点課題を析出し、取り組みテーマ、計画、目標を設定しています。

電子業界行動規範(EICC)への対応 -24-25p

ロームグループでは、電子業界行動規範(EICC)に基づいたマネジメントシステムの構築を進めており、2012年度からは、内部監査も開始しています。また、お客さまによるCSR監査も受審しています。

社会からの評価

ロームが組み入れられている
SRIインデックス(2012年3月末現在)



Ethibel Sustainability Indexes



MS-SRI

安定供給のために 体制の強化に全力で 取り組んでいます

(本記事は2012年3月末時点の情報に基づいています)



代替生産のため日本のローム・アポロ株式会社に出張して働くRISTの社員

大規模自然災害の影響

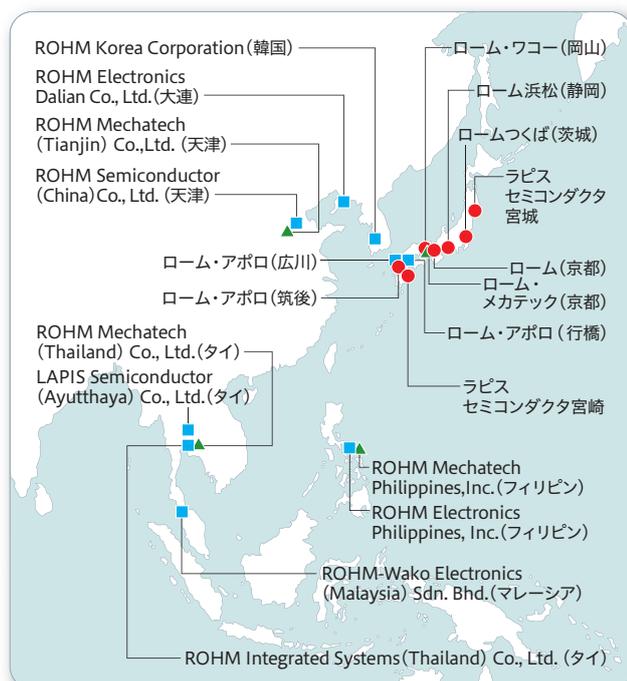
——タイ洪水による一部生産拠点操業停止からの回復に注力、東日本大震災の被害からは早期に回復

2011年10月、タイの洪水によってロームグループの ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd. (以下、RIST) と、LAPIS Semiconductor (Ayutthaya) Co., Ltd. (以下、LSA)、ROHM Mechatech (Thailand) Co., Ltd. (以下、RMT)の3拠点が浸水被害を受けました。人的被害は発生しませんでした。生産設備が水没したため操業を停止しました。10月8日に対策本部を設置し、RISTにおいて懸命の復旧作業を進めた結果、11月中旬から一部生産を再開することができました。同時に、ROHM Electronics Philippines, Inc. など他の

生産拠点での代替生産を行いました。また、LSAに関しては、ラピスセミコンダクタ宮崎株式会社などでの代替生産を進めました。この結果、2012年1月には、操業停止前の通常の供給量を確保することができました。

なお、2011年3月11日に発生した東日本大震災に関しては、ロームグループではラピスセミコンダクタ宮城株式会社(当時の名称はOKIセミコンダクタ宮城株式会社)とロームつくば株式会社の2社が被災しましたが、ロームつくばでは3月下旬に、ラピスセミコンダクタ宮城では4月初旬に生産を再開し、生産量を回復しました。

■ ロームグループ生産拠点



● 前工程 (FAB) 生産拠点 ■ 後工程 (ASSY) 生産拠点
▲ 金型・リードフレームの生産拠点

■ タイ洪水で被害を受けた主な生産拠点

ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.
(タイ・ナワナコン工業団地)

10月15日 ・操業停止
10月20日 ・工場建屋に浸水
10月23日 ・金型、部品等の取り出し開始
11月16日 ・一部生産を再開




LAPIS Semiconductor (Ayutthaya) Co., Ltd.
(タイ・ロジャナ工業団地)
(2012年1月 閉鎖決定)

10月8日 ・操業停止
10月10日 ・構内に浸水、工場が平屋であり、今後の洪水被害再発リスクを考慮し、ラピスセミコンダクタ宮崎株式会社など他拠点での代替生産を実施




ロームの約束

グループ全体で安定供給体制を強化してまいります

ローム株式会社 常務取締役生産統括本部長 山葉 隆久



お客さまに、ご不便・ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします

「われわれは、つねに品質を第一とする。いかなる困難があろうとも、良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、文化の進歩向上に貢献することを目的とする。」という企業目的を掲げるロームグループにとって、お客さまに供給責任を果たすことは、極めて重要な使命です。

しかしながら、2011年に発生した東日本大震災とタイの洪水では、ロームグループの生産拠点が被災し、操業停止に陥りました。お客さまをはじめとするさまざまなステークホルダーの皆さまからご支援をいただきながら、ロームグループの総力を挙げて対応に努めました。しかしながら、生産量を回復させるまで、お客さまに多大なご不便・ご迷惑をおかけいたしました。あらためてお詫びを申し上げます。

ロームグループのすべての生産拠点を対象とするリスク診断を実施しました

ロームグループでは、今回の事態を重く受けとめ、グループを挙げて安定供給体制の強化を図っています。そのために、まずロームグループの国内外全生産拠点を対象とした「リスク診断」を実施しました。

地震や津波、台風、竜巻、落雷、洪水、豪雨、霧・黄砂・大雪などの自然災害はもちろんのこと、火災や爆発、政情不安、インフラ問題、材料の供給停止、そして伝染病に至るまで、あらゆる観点からリスクを徹底的に洗い出しました。

操業停止期間を短期化するための対策と在庫の積み増しを実施しました

リスク診断の結果に基づいて、ロームグループの各生産拠点では、これまでに実施してきた建屋の耐震化などの対策に加えて、洪水に備えて受電設備などの設置場所をかさ上げするなど、操業停止期間を短期化するためのさらなる対策を進めています。



数人が水に浸りながらボートを押さえて金型を搬出(RMT)



東日本大震災で被災したラピスセミコンダクタ宮城株式会社の復旧作業(クリーンルームの復旧)

経営品質の革新

■ リスク診断における診断項目



ハイライト

また、生産の一極集中リスクを避けるために「同一製品の複数拠点生産」を徹底することも決定しました。製品の金型を複数の拠点で保有するなどして同じ製品を複数拠点で生産できる体制にします。

さらに、各生産拠点が万一操業停止に陥り、操業を停止している期間内においても、お客さまへの製品供給が滞ることがないように必要在庫を積み増すこととしました。

ロームグループ一丸となって お客さまに対する供給責任を果たしていきます

今回の経験は、ロームグループにおいて安定供給のための体制や設備を強化するための大きな契機となりました。また、そればかりでなく、ロームグループが一丸となって危機に立ち向かうことの重要性を再認識する機会ともなりました。社員一人ひとりが危機感を持って「頑張らなければ」「協力しなければ」と考え、「組織の壁を越えて一致団結して動く」ことを今後も継続して

いきたいと考えています。

お客さまに対する供給責任を果たしていくために、ロームグループでは今後も体制面、設備面での対策を強化しながらグループ一丸となって努力し続けることをお約束します。

グループ一丸となって復旧に取り組んだことに対してタイのインラック首相からねぎらいのお言葉をいただきました。



タイ投資委員会主催のパーティー(2012年1月17日)にて

タイで洪水対策を 着実に進めています

ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.
社長
南 比呂志



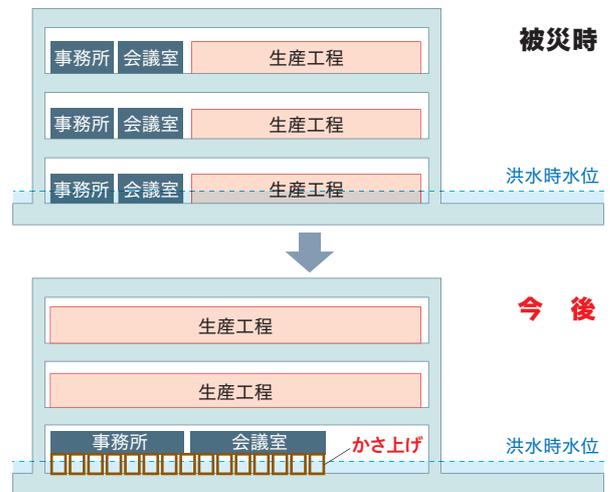
今回の洪水を受けて、RISTが立地するナワナコン工業団地では洪水対策を強化しています。その一環として、地中7m、地上3.5mの高さの止水壁が工業団地の周囲に建設されることとなり、2012年8月には完成する予定です。さらに、私たち独自でも、生産工程を上層階に集中させ、あわせて工場の受電設備やインフラ関連装置設置エリアをかさ上げするなど、万一建物内に浸水があっても稼働を続けられる体制の整備を進めています。

タイは自動車産業の集積地でもあり、自動車分野の売上高比率を高めていくというロームグループの成長戦略上、非常に重要な地域です。今後も洪水リスクの低減に努め、お客さまへの供給責任を果たしてまいります。

■ RISTの洪水対策

- 生産工程の上層階への集約
- 工場の受電設備などの設置場所のかさ上げ
- 工場棟の周囲への止水壁の設置

■ 生産工程の上層階への集約



電力・水の供給停止に 備えて対策を進めています

ラピスセミコンダクタ宮城株式会社
代表取締役社長
松本 宗之



東日本大震災が発生した2011年3月11日、ラピスセミコンダクタ宮城株式会社では、地震発生直後から電力や工業用水などの供給が止まったため、生産停止を余儀なくされました。幸いにも人的被害はなく、設備の被害も軽微であったため、公共インフラの復旧を待って4月初旬には生産を再開することができました。

今回、公共インフラが復旧するまでに時間がかかったことを踏まえて、長期的に電力の供給が止まった場合でも自前で電力を確保できるよう自家発電設備を強化するとともに、工業用水の供給停止に備えて井戸を掘削しました。また、従来よりも耐震性の高い設備への更新なども着実に進めています。

■ ラピスセミコンダクタ宮城株式会社の地震対策

- 自家発電設備の強化(2011年7月完成)
- 給水ソース確保のために井戸新設(2012年4月完成)
- 耐震性の高い設備への更新(貯水タンクなど)
(2005年完成。2011年3月以降、順次強化)



自家発電設備

東海地震に備えて 対策を強化しています

ローム浜松株式会社
取締役
松本 康彦



ローム浜松株式会社(静岡県浜松市)では、従来から工場建屋を免震構造とするなど、さまざまな対策を講じていましたが、現在、東海地震による被害想定の見直しに伴い、対策をさらに強化しています。

ローム浜松は、海岸から6km離れていますが、現状のままでは津波による浸水の可能性が完全には否定できないため、新たに止水壁を設置しました。また、工業用水が停止した場合の備えとなる井戸の増設や、製造工程に用いる水を処理する設備の耐震補強、炉の転倒・破損防止のための補強など、さまざまな地震対策を進めています。

■ ローム浜松株式会社の追加地震対策

- 津波対策の止水壁(2012年3月完成)[※]
- 用水確保のための井戸増設(2012年3月完成)
- 水、薬品処理設備の耐震補強(2012年3月完成)
- 炉の転倒防止・破損防止対策(2014年3月完成予定)

※ 2012年3月31日の「内閣府 南海トラフの巨大地震モデル検討会」の津波高(第一次報告)への対応については今後指針が示されてから対応する予定です。



津波対策の止水壁設置箇所(赤線部分)

者を任命し、CSR推進委員会を設置。グローバルなCSRマネジメントを実行していくための体制を整備しました。

今後、各地域のステークホルダーの要望を取り入れて各社ごとのCSR推進方針を策定します。

国際的なイニシアティブなどに 基づいた施策を展開

2011年度、ロームグループは、国連グローバル・コンパクト(UNGC)に加盟しました。

また、社会的責任に関する国際規格ISO26000に基づいて、バリュー

チェーンを見渡して重要な課題を特定し、取り組みテーマ、計画、目標を設定しました(詳細はP5-6、P33-34ご参照)。さらに、電子業界行動規範(EICC)に基づいたマネジメントシステムの構築にも着手しました。

■ 国際的なイニシアティブ・ガイドライン・規範に基づいた主な施策

イニシアティブ・ガイドライン・規範の概要	2011年度実績	2012年度の計画
国連グローバル・コンパクト(UNGC)： 企業をはじめとする組織体が協力して社会の持続可能な発展を目指す国際的なイニシアティブ	・UNGCへの署名を実施	・UNGC10原則に関する社内教育・研修の実施
ISO26000： 国際標準化機構(ISO)から発行された社会的責任(SR)に関するガイダンス規格。さまざまな組織体がSRを果たすための手引きと位置づけられている	・重点課題を析出し、取り組みテーマ、計画、定性・定量目標を設定(詳細はP5-6、P33-34ご参照)	・計画・目標に基づいたPDCAサイクルの実行
電子業界行動規範(EICC)： 主に電子機器関係のメーカーや大手サプライヤーによって構成される団体が策定した規範。「人権・労働」「安全衛生」「環境」「公正取引・倫理」とこれらに関する「マネジメントシステム」に関する規範からなる	・EICCに基づいたマネジメントシステムを構築するための手順書を作成し、国内グループに展開	・左記手順書の海外関係会社への展開 ・内部監査による規範適合状況の検証

ロームグループCSR基本方針

我々は、企業目的・方針に則り、グローバルな視点で誠実に事業活動を行い、社会の持続的な発展に貢献します。また、以下のとおりあらゆるステークホルダー(利害関係者)の皆さまと良好な関係を構築し、社会からの信頼を得て、企業の持続的な発展を目指します。

お客さま	我々は、お客さまに対しては、優れた品質、性能を有する製品と適時的確なサービスを安定的に供給することにより、お客さまの満足と信頼を得ることを目指します。また、お客さまへの誠実な対応を心がけ、製品の安全性を最優先し、それに関する情報の適切な開示に努めています。
お取引先さま	我々は、お取引先さまに対しては、公正で合理的な基準によってお取引先さまを選定するとともに、お取引先さまとの信頼関係を大切に、対等かつ公正な取引を行い、お互いが繁栄することを目指しています。
社員	我々は、社員に対しては、安全・快適で働きやすい職場環境を確保するとともに、人間性と個性を尊重し、公正で明るい職場をつくり、一人ひとりの働きがいを高めることを目指しています。
株主・投資家の皆さま	我々は、株主・投資家の皆さまに対しては、継続的な企業価値の向上を実現させ、適正な利潤を確保することにより、株主・投資家の皆さまへ還元することを目指すとともに、積極的かつ幅広いIR活動を通じて説明責任を果たしています。
社会・地域の皆さま	我々は、社会・地域の皆さまに対しては、各国、地域社会との交流を深め、それぞれの文化、歴史を尊重するとともに、社会貢献活動や文化・芸術活動などの実施または支援活動を行っています。また、事業活動を通じた地球環境保全活動を積極的に行っています。

CSRの内部監査を開始

多くの電子機器メーカーは、サプライヤーが電子業界行動規範(EICC)などのCSRに関する基準を満たしているかどうか検証するために「CSR監査」を実施しています。ロームグループでも、こうしたCSR監査を受審しています。

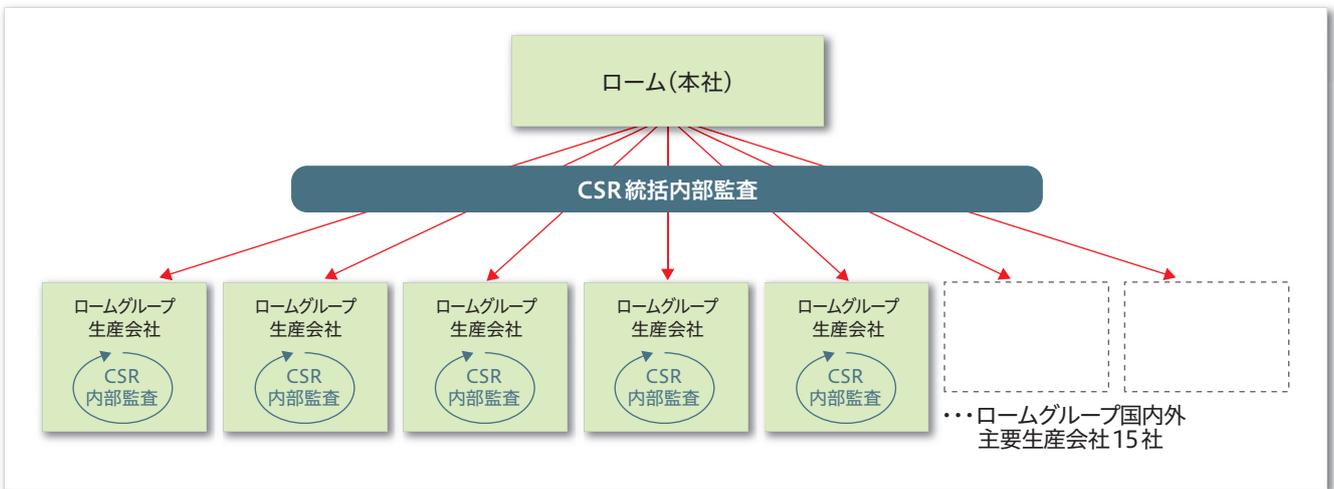
ロームグループでは、これら外

部からの監査に加えて、2012年度からCSRに関する2つの内部監査を開始しています。年1回実施する「CSR内部監査」は、主要な国内外生産会社15社がEICCへの適合状況を自己検証する監査です。また、2年に1回、ローム本社のCSR室内に設置した事務局がこれら生産会社を監査する「CSR統括

内部監査」も実施し、各社のCSR内部監査実施状況やEICCへの適合状況などを検証しています。

これら監査の指摘事項を他の生産会社に水平展開することで、ロームグループ全体のCSRマネジメントの底上げを図ってまいります。

■CSR内部監査とCSR統括内部監査



お客さま企業によるCSR監査——指摘事項を改善し、CSRの仕組みを強化しています。

ロームグループでは、お客さま企業によるCSR監査(EICC監査含む)を、自らの経営品質を高めるための重要な機会と位置づけています。これらの監査でいただいた指摘事項を着実に改善し

ていくことで、CSRマネジメントの仕組みを強化しています。また、2011年度には、EICC遵守をお取引先さまにも要請するため、取引基本契約書の改定などを実施しました。

■2011年度のCSR監査(EICC監査含む)受審状況一例

お客さま企業	受審したロームグループの会社
Amazon.com, Inc. 様	ローム株式会社 / ローム・ワコー株式会社 / ローム・アポロ株式会社 / ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd. / ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd.
International Business Machines Corporation (IBM) 様	ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd. / ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.

ステークホルダー参画

ステークホルダーとの対話を重視

企業が存続していくためには、その企業を取り巻く多様なステークホルダーの声を経営に組み込んでいく必要があります。

ロームグループでは、日常的な営業活動やCSR監査などを通じて、お客さまからさまざまなご指摘やご要望をいただいています。お取引先さまに対しては、工場監査などの機会において直接ご要望やご意見を伺っています。社員との対話については、職場環境や処遇に関して経営層と従業員代表が協議する会議を定期的開催するとともに、社長と社員による対話(詳細はP7ご参照)を頻繁に実施し、さまざまなテーマで社員からの意見や提言を収集しています。

また、できるだけ多くの株主・投資家の方々から直接ご意見をお伺いするために、国内外でのIRミー

ティングを実施しています。さらに、国内外の教育機関との共同研究や社会貢献活動などを通じて世界各国の方々と交流を深めています。

ロームグループは、こうしたステークホルダーとの対話機会を大切に、いただいたご意見やご要望をしっかりと事業活動やCSR活動に生かしています。

国際規格に準拠した マネジメントシステム

「OHSAS18001」認証取得 に向けて活動を開始

ロームグループの多くの会社では、従来から環境マネジメントシステム規格「ISO14001」と品質マネジメントシステム規格「ISO9001」の認証を取得しています。

2011年度には、新たに労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格である「OHSAS18001」の認証取得を目指して活動を開始しました。

■ ステークホルダーとの主な対話機会

- 【お客さま】……………CSR監査、日常的な営業活動
- 【お取引先さま】……………グリーン調達などの説明会、工場監査
- 【社員】……………社長と社員との対話、労使対話
- 【株主・投資家の皆さま】…株主総会、国内外でのIRミーティング
- 【社会・地域の皆さま】……………教育機関との共同研究、社会貢献活動

■ マネジメントシステム構築状況

ISO9001	ロームグループ全体で20件取得。
ISO14001	ロームグループ全体でISO14001に準拠したマネジメントシステムを構築。 (ロームと国内関係会社、ROHM Korea Corporationは統合システムによる第三者認証を取得。海外グループ会社はISO14001規格に基づいたマネジメントシステムを構築し、自己宣言)
OHSAS18001	ロームとROHM Semiconductor (China) Co., Ltd.の2社が2012年度内の取得を目指して準備中。

グローバルな CSRマネジメント体制の 整備を進めています。

ISO26000は、世界各国のステークホルダーが多数参加して策定された規格であり、各国の法律や文化の違いを超えた「世界共通言語」であると言えます。だからこそ、グローバルに事業を展開するロームグループにとって経営上のさまざまな課題にアプローチするための優れた手引きになると考え、現在、同規格に基づいたグローバルなCSRマネジメント体制の整備を進めています。

さらに、CSRを競争優位性につなげるための「戦略的CSR」の観点から、社会課題の解決に貢献する技術や製品の開発にも力を注いでいます。

今後もロームグループでは、CSRを「経営の軸」と位置づけ、積極的に取り組んでまいります。

ローム株式会社
常務取締役研究開発本部長
CSR推進委員会委員長

高須 秀視

応用物理学会フェロー
[客員教授] 清華大学、浙江大学、
西安交通大学、大阪府立大学



人権／労働慣行

雇用における人権・多様性の尊重 国際労働機関の「労働における 基本原則及び権利」を尊重

ロームグループは、国際労働機関(ILO)による「労働における基本原則及び権利」を尊重しています。

ロームグループのスタンダードとして「強制労働や児童労働の禁止」「機会均等と多様性の尊重、性別・年齢・国籍・人種・民族・信条・宗教・社会的身分および身体障がい」を理由とした不当な差別の禁止」を定め、社員一人ひとりの人権を尊重しています。

多様な人材の積極雇用

ロームでは、外国人学生も含めて学歴や性別の枠を超えて、多様な人材の積極的な採用をグローバルに推進しています。

外国人社員に対しては、入社後に英語での研修を実施するとともに、新入社員一人ひとりに1年間

メンターをつけ、多様な国籍の社員との相互理解を促進しています。

女性社員の活躍

ロームの女性社員比率は約25%となっています(2012年3月末現在)。

近年では、以前は女性が少なかった営業職や技術職でも新卒採用の女性比率を向上させており、女性社員が活躍できる場が着実に広がりつつあります。

■ 新卒採用女性比率(ローム)

	2010年度	2011年度
営業職	35%	50%
技術職	10%	12%

ワークライフバランス

ロームでは、結婚、妊娠、出産などのライフイベントを迎えても継続して就業できるよう、制度の整備を図っています。2010年度には、子ど

もが小学校3年生になるまでの短時間勤務制度と、育児休暇の一部を有給化する制度を導入しました。

なお、育児休暇から復帰する社員の不安を軽減するために、復帰後の業務内容の調整などを個別に実施しています。今後もワークライフバランス施策を充実させ、多様な人材が働きやすい環境の整備に努めてまいります。

育児休暇取得者の声

育児休暇を考えたのは、双子が生まれることがわかり、確実に人手が必要だと思ったからです。2010年、ロームで男性として初めて育児休暇を取得しました。当初は、社内の方がどのように感じられるだろうかと心配していましたが、皆さんの休暇取得に対する関心が強く、逆に心配していただき本当にありがとうございました。

休暇期間中は、周囲の方々の多大なご理解とご協力により、家族の絆の重要性を痛感した日々でした。大事な時に父が傍にいてくれるという安心は、家族にとって非常に大切なことだったと再認識しました。その後、取得者が続いていると聞き、取得して本当に良かったと感じています。

ローム株式会社
LSI商品開発本部
グリーンIT・モーション
Westユニット
パワーシステムチーム
チームリーダー

北條 喜之



多様な国籍の社員との意見交換により新しい発想を生み出します。

社員向け相談室を設置

社員が抱える悩み、相談を聴く相談室を人事部に設けています。

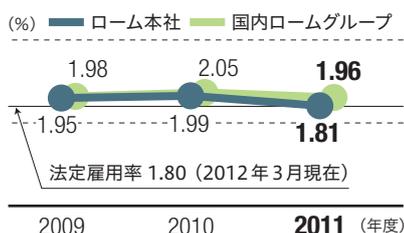
「職場の人間関係に関する相談」「キャリアに関する相談」「ハラスメントに関する相談」を電話・メール・面談で受け付けています。また、女性が相談しやすいよう、女性相談員を配置しています。

障がい者雇用

国内ロームグループでは、障がい者の雇用を推進しています。

2011年度の障がい者雇用率は、ロームで1.81%、国内グループ全体では1.96%となりました。

■ 障がい者雇用率



サプライチェーンにおける人権の尊重

お取引先さまに人権への配慮を要請

ロームは、取引基本契約書において「非人道的、差別的取扱いの禁止」や「強制労働、児童労働の禁止」などをお取引先さまに要請しています。

2011年度には、この契約書の改定を進め、人権・労働関連の詳細な規範を含む電子業界行動規範(EICC)の遵守を要請する条項を追加しました(詳細はP30ご参照)。

労働安全衛生

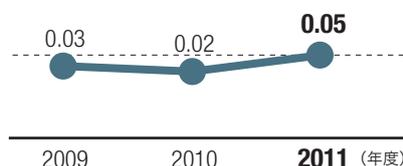
労働災害ゼロを目指して

ロームでは、中央安全衛生委員会のもと、労働災害発生件数ゼロを目標として、「リスクアセスメント」や「社内パトロール」を実施しています。その結果、2011年度まで17年間連続で休業災害ゼロを達成しています。

国内外の生産会社においても、労働災害発生件数ゼロを目標として、各社ごとに安全衛生管理に取り組んでいます。また、年1回、ロームが「法令遵守チェックシート」を用いて各社の安全衛生関連法などに対する理解度・遵守状況を確認しています。

■ 度数率(ロームグループ)

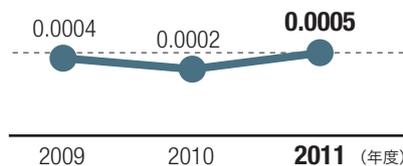
※ロームの度数率は各年度とも0



$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延実労働時間}} \times 1,000,000$$

■ 強度率(ロームグループ)

※ロームの強度率は各年度とも0



$$\text{強度率} = \frac{\text{延労働損失日数}}{\text{延実労働時間}} \times 1,000$$

人材育成

多彩な研修プログラムで社員の成長を支援

ロームでは、全社員を対象とした階層別教育のほか、営業、開発など部門別の研修にも力を注いでいます。

2009年度からは若手の営業担当者について、2011年度からは若手の商品開発技術者についてそれぞれ新たな教育プロジェクトを立ち上げ、成長段階に応じて求められる能力の開発を進めています。この他、品質管理講座、各種資格取得のための外部研修などの専門教育プログラムも提供しています。

これらを含めた2011年度の研修受講者は延べ2,298人に上ります。これは1年間に社員の半数以上が何らかの研修を受講したことになります。

グローバルな活躍を目指す社員をサポートする仕組み

ロームは、2009年度にグローバル人材育成制度を整備し、社員一人ひとりが、それぞれの成長段階において最大限の力を発揮できるようにキャリアプランを提示しています。

管理、営業部門では、活躍のフィールドを広く世界に持ちたいという人材を育成し、世界各地へと派遣しています。自身のキャリアを意識させて、世界へ羽ばたく人材となる夢を持たせ、それが実現できるようキャリアプランニングや研修の実施という形でサポートしています。

環境

環境目標

2020年度に向けた中期目標

ロームグループでは、2020年度に向けた中期目標を設定しています(詳細はP33ご参照)。

また、中期目標の達成に向けた年度ごとの目標も設定し、PDCAサイクルを回しています。

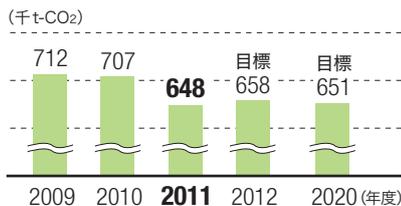
環境負荷低減活動

温暖化防止に向けた生産活動の省エネルギー化

ロームグループでは、半導体製造に必要なエネルギーを最小限にした効率の高い生産ラインRPS(ローム・プロダクション・システム)を構築。重要な生産設備は可能な限り自社開発し、QCD(品質、コスト、納期)を追求してきました。

その結果、生産効率向上と、さまざまなムダの排除に成功し、省エネルギー面からも大きな成果をあげています。

■ CO₂ 排出量(ロームグループ)



※2011年度は、タイ洪水の影響により生産量が減少しCO₂排出量が一時的に減少しました。

VOCの削減

半導体の製造工程に必要な有機溶剤は、揮発性有機化合物(VOC)に該当し、大気中に排出されると光化学スモッグの原因となると考えられています。

ロームグループでは、工程の変更・改善による使用量削減とともに、除害装置の設置なども実施し、排出量の削減を進めています。

■ VOC 排出量(ロームグループ)



水資源の保全

工場廃水は化学的中和処理によって無害化してから排水されますが、河川放流地域でさらに環境保護を図るための方法として「クローズド処理システム」があります。これは処理された廃水をさらに濃縮し、乾燥機によって完全に蒸発させるシステムです。

ロームグループでは、このシステムを、フィリピン環境行政の重要なポイントとなっているフィリピン最大の湖「ラグナ湖」近傍の生産工

場に導入し、現地水環境の保全に貢献しています。

また、ロームグループの半導体工場では、工業用水・地下水を半導体洗浄用途に超純水化して使用しますが、使用後の比較的汚れの少ない水は回収され、超純水にリサイクルされます。そのリサイクル率は、工場の取水全体の約40%にもなります。今後は、生産設備の水使用量削減に役立つ技術の発掘などを進め、さらなる水使用量の削減を進めます。

■ 水投入量(ロームグループ)



フィリピン経済特区庁より「優秀環境成果賞」を受賞

フィリピンの生産拠点では2012年4月、フィリピン経済特区庁より「優秀環境成果賞」を受賞しました。同賞の受賞は2009年に続き2度目となります。また、昨年の優秀雇用者賞、社会貢献賞に続き、名誉ある賞を連続して受賞することができました。

今回は適正な環境管理や法令遵守以外に、地域と密着した環境保全活動(植樹、リサイクル、環境教育)や環境負荷の低減に向けた取り組み(CO₂削減や省エネ活動)が高く評価された結果です。今後も地道な環境保全活動を通じて、フィリピンの環境向上に努めていきたいと考えています。



フィリピン大統領出席の受賞式(2012年4月26日)

ROHM Electronics Philippines, Inc.
総務部 環境・防火課

エマリン マリクテム



公正な事業慣行

コンプライアンス

体制・行動指針

ロームでは、企業として求められる適切なコンプライアンス体制を確立・維持し、また啓蒙・推進するためコンプライアンス委員会を設置し、グループにおけるコンプライアンス違反の防止を図っています。

また、日々の事業活動の中で遵守すべき倫理上の基本的なルールを明らかにした「ロームグループ行動指針」を全社に展開するとともに、コンプライアンス強化月間の設定や研修会などの社内啓蒙活動を通じて、コンプライアンス意識の浸透および向上を図っています。

お取引先さま向け コンプライアンス・ホットライン

ロームでは、コンプライアンス・ホットラインを設置し、非正規社員を含む全社員から国内グループにおけるコンプライアンス違反に関する相談・通報を受け付け、違反の早期把握と適切な対応に努めています。また、海外関係会社でも同様のホットラインを設置しています。

さらに、2011年度にはお取引先さま向けのコンプライアンス・ホットラインを、ロームと海外主要関係会社に設置しました。

反腐败(贈収賄防止)の徹底

ロームグループでは、2012年1月に「贈収賄防止管理規定」を制定するとともに、国内外の全関係会社に同規定を発信し、反腐败の徹底を図りました。今後、階層別研修などの機会を通じて継続的に啓蒙・教育活動を実施してまいります。

取引基本契約書における遵守要請事項

～「電子業界行動規範(EICC)」に準拠したCSR活動を要請～

1. 人権・労働……………強制的な労働の禁止など
2. 安全衛生……………機械装置の安全対策、職場の安全・衛生など
3. 環境……………製品に含有する化学物質の管理など
4. 公正取引・倫理……………優越的地位の濫用の禁止など
5. 品質・安全性……………製品安全性の確保など
6. 情報セキュリティ……………コンピュータ・ネットワーク上の脅威に対する防御など
7. 社会貢献……………社会・地域への貢献など
8. 事業継続計画(BCP)……………危機管理体制の構築など

バリューチェーンにおける 社会的責任の推進

お取引先さまに EICC 遵守を要請

ロームグループでは、「お取引先さまへの工場監査結果」「環境評価認定結果」「ISO取得状況」「事業継続計画(BCP)策定状況」などもチェック項目に加え、定期的にお取引先さま評価を実施しています。また、取引基本契約書を通じて、さまざまなCSR上の配慮をお取引先さまにお願いしています。

2011年度には、従来の取引基本契約書を改定し、電子業界行動規範(EICC)の遵守を求める条項を盛り込みました。今後、すべてのお取引先さまと、この契約書で取引契約を締結してまいります。また、EICCに準拠した「CSR活動自己評価表」をお取引先さまに配布して遵守状況を確認し、必要に応じて改善指導などを実施する予定です。

「紛争鉱物」の不使用

ロームグループの製品には、スズ、金、タンタル、タングステンが使用されています。市場で流通している

これら4種の鉱物の中には、非合法的な武装勢力が紛争地域において略奪などの非人道的な方法で入手した「紛争鉱物」が含まれています。

そこでロームグループでは、2010年度から調達先企業を厳正に選定し、2012年6月現在、それら「紛争鉱物」を一切使用しておりません。

CSR 調達を推進

2012年度、私たちはCSR調査の運用見直しと定着、BCP体制確立などのテーマをお取引先さまのご理解とご協力を得ながら進めてまいります。

また、国連グローバル・コンパクト、ISO26000、EICCなどの考え方や規範を部門の全員が深く理解して行動し、お取引先さまへの浸透に努めます。

ローム株式会社
調達部 統括課長
島津 護



お客さまへの対応(消費者課題)

品質の確保

お客さま企業と消費者に 確かな品質を提供するために

ロームグループの製品は、そのほとんどが部品やデバイスであり、最終製品ではありません(LED照明などを除く)。しかし、お客さま企業に確かな品質の製品を供給することが最終製品の消費者・ユーザーに対する使命であると考え、「品質第一」を追求しています。

品質管理体制

ロームでは、生産部門内に製品(LSI、トランジスタ、LEDなど)ごとに製造部を置き、日常の品質、コスト、納期についての管理業務を担っています。各製造部内にはQC(品質管理)部門があり、各製品の環境、品質保証全般、および国際規格ISO9001に準拠した品質マネジメントシステムの運用を担っています。

また、社長直轄組織として品質保証部を置き、製造部や本部の枠を越えた全社にかかわる品質マネジメントシステムの構築や情報展開、製造部QC部門の業務監視などにあたっています。

新製品開発時には、お客さまのご要望を満たす安全で信頼のおける製品をタイムリーに世に送り出

すために4段階の設計審査と、「試作から量産安定生産までの期間」「量産」の各段階において評価を実施。改善情報は設計開発部門にフィードバックして対処するとともに、次期設計に活用しています。

徹底した品質教育

開発・営業・製造部門がお客さま支援のあらゆる面で「品質第一」を徹底できるように、ロームグループでは品質に関する社員教育に力を注いでいます。

全新入社員を対象とした品質管理の基本手法に関する教育をはじめとして、技術系社員に対する信頼性技術などの教育、職位ごとの品質管理に関する階層別教育などさまざまな教育を実施しています。また、各生産拠点においても、品質に関する教育を行っています。

秘密情報保護

情報セキュリティ意識の向上

ロームでは、「個人情報の保護に関する法律」および「個人情報の保護に関する法律についての経済産業分野を対象とするガイドライン」などに基づき、お客さまの個人情報の利用目的の明確化、適正な取得、安全かつ厳正な管理に努めています。

さらに、契約に基づいて入手したお客さまの秘密情報を適切に保護するために情報セキュリティポリシーを策定し、セキュリティ事故防止に対する仕組みづくりや、社員に対する意識啓発に取り組んでいます。

2011年度には、ロームの全社員を対象としたオンラインでの情報セキュリティトレーニングを実施しました。そして、受講状況や理解度を可視化し、受講者に対して適切にフィードバックすることで全社員の情報セキュリティ意識向上を効果的に進めています。このトレーニングは、2012年度以降も情報環境の変化に即応した内容に刷新しながら、継続的に実施してまいります。

なお、2011年度も、お客さまの機密情報・個人情報の漏洩・紛失は発生しておりません。

全社一丸となって 「品質第一」を追求

「品質第一」は品質部門だけで達成できるものではありません。開発部門、材料調達部門、生産設備管理部門、モノづくりの中心である製造部門、営業部門をはじめ人事、総務、経理などの管理部門に至るすべての社員が日々努力し、活動することが重要です。私たちは、それができる社員を育てています。

ローム株式会社
品質保証部 技術主査
粟飯原 敬一



大連の生産拠点での教育の様子

コミュニティへの参画及びコミュニティの開発

災害被災地支援

東日本大震災の被災地復興を支援

ロームグループは2011年7月、LED電球を福島県・宮城県・岩手県の各建築士事務所協会に寄贈しました。寄贈した15,000個のLED電球は復興住宅などで使用されています。

また、公益財団法人ロームミュージックファンデーションを通じて被災地各地で開かれた支援コンサートへの協賛なども積極的に実施し、全27団体、85公演を支援しました(詳細はP35ご参照)。

タイの洪水被災地などに義捐金を寄付

ロームグループでは、世界各地の災害被災地復興を支援するための寄付を実施しています。2011年度には、タイの大洪水やフィリピンミンダナオ島の台風の被災地復興のために義捐金を寄付しました。

社会貢献活動

子どもたちへの科学啓発

青少年の「科学離れ」「技術離れ」が心配されている日本で、ロームは、「科学する心」を培ってもらうためのページを作成し、自社のWEBサイトで公開しています。

「ローム君の新・博物日記一昔ばなしを科学する」と題したこのコンテンツは、昔話に隠れているいろいろな不思議を科学的な視点で解明するというもので、現在までに46話を公開しています。

小学生向け環境学習授業

ロームは、2010年度から京都市内の小学生を対象とした環境学習授業を実施しています。

学校での出前授業では、地球温暖化の仕組みや家庭や学校でできる省エネに関する座学に加え、自社製のLEDを使用した実験を提供しています。その中で手動発電機を使ってLEDと豆電球との消費電力を比較するなど、省エネ効果を体感してもらっています。

また、子どもたちのモノづくりの体験が少なくなり、興味・関心が希薄になる中、「モノづくり都市・京都」の特性を生かし、小中学生がモノづくりを学び・体験する機会を創出するというを目的に、京都市内の小学生が社会活動を疑似体験できる「京都学びの街生き方探究館」にブースを展示し、環境学習授業を実施しています。

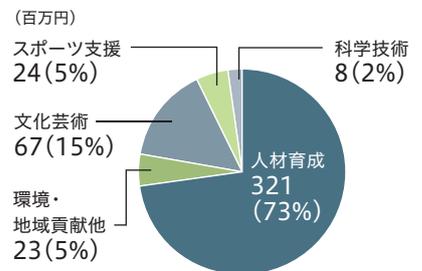
2012年度以降も継続し、子どもたちに省エネの大切さとモノづ

くりの楽しさを伝えてまいります。

「ロームの森」植林活動

地球温暖化抑制の観点から、2001年より、オーストラリア南部のビクトリア州で「ロームの森」と名付けた植林活動を展開し、2010年度までの植林総面積は923haに達しました。2011年からは成木から伐採を開始し、チップ化した後に製紙材料として有効活用されています。

2011年度の寄付・協賛金額



地域に根差した社会貢献活動を実施

私たちは、地域への社会貢献活動の一環として、天津市視力障害学校の子どもたちに学習用点字用紙4,000枚を贈呈しました。

この活動は昨年からも継続して実施しており、児童の皆さんに大変喜んでいただいています。

これからも地域に根差した社会貢献活動を実施してまいります。

ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd.
CSR推進室

李 浩然



環境学習授業の様子

CSRの目標・実績

ロームグループのCSR重点課題

< ① 高品質な製品の安定供給 ② 革新的な製品による社会的課題の解決 ③ グローバルな人材育成 >

ISO26000
中核主題

取り組みテーマ<①②③>:対応する重点課題の番号>

2011年度目標・計画 <*2020年度目標・計画>

組織統治	CSR マネジメント 体制の 維持・向上	CSR体制の強化	・グローバルなCSRマネジメント体制の強化を図る。
		国際的なイニシアティブ・ガイドラインに基づいたCSR活動の推進	・国連グローバル・コンパクト、ISO26000に基づいたCSRマネジメントに着手する。
		安定供給のための事業継続マネジメント(BCM)体制の維持・向上 <①>	・必要に応じてBCM体制の見直しを図る。
		品質マネジメントシステムの維持・向上 <①>	・ISO9001に基づいたマネジメントシステムを維持する。
		環境マネジメントシステムの維持・向上	・ISO14001に基づいたマネジメントシステムを維持する。
		労働安全衛生マネジメントシステムの維持・向上	・OHSAS18001の認証取得に向けた準備を開始する。
		ステークホルダーダイアログの実施	・多様なステークホルダーとの対話を実施する。
人権	人権の尊重		・お取引先さまに対して、人権尊重の観点を含む「EICC基準」への準拠を要請するために、取引基本契約書の改定を進める。
	ダイバーシティの推進/働きやすい職場環境の整備		・国内グループにおいて海外出身者を積極的に雇用する。 ・法定障がい者雇用率1.80%を維持する(国内グループ) ・多様な人材が働きやすい職場環境を維持する。
労働慣行	グローバルビジネスを担う人材の育成 <③>		・グローバル人材育成制度の運用を継続する。
	安全で働きやすい職場環境の構築		・労働災害ゼロを目指し、安全衛生管理を徹底する(ローム)。 ・ロームグループ国内外関係会社の労働安全衛生指標を検証する。
環境	「2020年度に向けた中期目標」を軸とした施策の展開	拠点におけるCO ₂ 対策	・CO ₂ 排出量を前年度実績から1%削減する。<*25%削減(2005年度比)> ・CO ₂ 排出量原単位を前年度実績から2%削減する。<*50%削減(1990年度比)> ・PFCS、SF ₆ 排出量を1995年度実績から14%以上削減する。<*50%削減(1995年度比)> ・オフィス部門CO ₂ 排出量を2009年度実績から1%削減する。<*10%削減(2009年度比)>
		バリューチェーンを通じたCO ₂ 対策 <②>	・売上高に占める環境配慮型製品の割合を50%にする。<*100%> ・物流のCO ₂ 排出量原単位を前年度実績から2%削減する。
		環境汚染物質の削減	・化学薬品取扱量[自主削減物質]を2009年度実績から2%削減する。 ・PRT対象物質取扱量原単位を前年度実績から1%削減する。<*10%削減(2010年度比)> ・VOC排出量を2000年度実績から33%削減する。<*40%削減(2000年度比)>
		資源の有効活用	・廃棄物排出量原単位(国内)を前年度実績から2%削減する。<*40%削減(2000年度比)> ・廃棄物排出量原単位(海外)を前年度実績から2%削減する。<*60%削減(2000年度比)> ・水の投入量を前年度実績から1%削減する。<*10%削減(2009年度比)> ・国内連結でゼロエミッションを維持する。
		環境コミュニケーションの推進	・児童向けの環境学習・啓発活動を継続実施する。
	グリーン調達ガイドラインに則った化学物質管理の徹底	・ガイドライン指定物質の不使用/使用量遵守を確実に実行する。	
公正な事業慣行	「ロームグループ行動指針」に基づいた公正な事業活動を推進	コンプライアンス体制の強化	・「コンプライアンス強化月間」を継続する。 ・階層別コンプライアンス研修を継続する。 ・お取引先さま向けのコンプライアンス・ホットラインを設置する。
		公正な競争・取引	・取引基本契約書の改定を進める(EICC基準の反映) ・4つの紛争鉱物(スズ、金、タンタル、タングステン)の不使用を徹底する。
		汚職・贈収賄の防止	・贈収賄防止に関する社内ルールを整備する。
		情報の保護・適切な管理	・社員に対して情報セキュリティ上必要な知識を周知徹底する。
お客様への対応 (消費者課題)	製品品質の確保 <①>	・品質問題の徹底した分析と継続的な改善活動を実施する。	
	お客さまから求められるニーズを的確に把握し、世界をリードする商品を開発 <②>	・「省エネ」などの社会課題解決に貢献する製品の開発を推進する。	
	CSR調達に関する方針の浸透と徹底	・CSR調達基準の見直しを検討する。	
コミュニティへの参画及びコミュニティの開発	良き企業市民として社会の発展や健全化に貢献	音楽文化の普及・発展への貢献	・音楽文化に関する支援を継続する。
		広く社会のニーズに対応した適切な寄付や賛助活動	・災害被災地支援等を目的とする寄付・賛助活動を継続する。
		地域社会からの要請に応じた活動	・地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。

ロームグループではISO26000に基づいたグローバルなCSRマネジメントを目指しています。そのために体制の強化を進めるとともに、ISO26000に準拠し、バリューチェーンを見渡して重点課題を析出し、取り組みテーマ、計画、目標を設定しています。

2011年度実績

評価

2012年度目標・計画

<ul style="list-style-type: none"> グループ全体のCSR活動を統轄する組織として社長を委員長とするCSR委員会を設立するとともに、社長直轄組織CSR室を設置した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ロームグループ国内外主要生産会社にCSR推進責任者を任命し、CSR推進委員会を設置する。 ロームグループ国内外主要生産会社でCSR内部監査を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 国連グローバル・コンパクトに加盟した。 ISO26000に基づいて重点課題、取り組みテーマ、目標・計画を設定した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 国連グローバル・コンパクト、ISO26000などに関する教育を実施する。 目標・計画の達成に向けたPDCAサイクルを実行する。
<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災、タイの洪水被害による生産停止を踏まえてBCM体制を強化した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> BCPの見直しを行い、グローバルに展開する。
<ul style="list-style-type: none"> 適切な維持・運用を実施した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ISO9001に基づいたマネジメントシステムを維持・運用する。
<ul style="list-style-type: none"> 適切な維持・運用を実施した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ISO14001に基づいたマネジメントシステムを維持・運用する。
<ul style="list-style-type: none"> ロームと中国のロームグループ関係会社において2012年度の取得を目指して活動を開始した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ロームと中国のロームグループ関係会社において認証を取得する。 他のロームグループ関係会社での認証取得を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 社長と社員のダイアログを実施した。 お客さまからのCSR監査を受審し、指摘事項の改善に努めた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> さらに多様なステークホルダーダイアログ等を検討する。 CSR監査対応を強化し、指摘ゼロを目指す。
<ul style="list-style-type: none"> 取引基本契約書の改定を完了した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 改定した契約書での契約再締結を進める。
<ul style="list-style-type: none"> 外国人採用比率を10% (2010年度) から14% (2011年度) に向上させた。 ローム、国内グループにおいて法定障がい者雇用率以上を維持した。 結婚、妊娠、出産などを迎えても継続して就業できる制度を継続運営した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 世界の市場で活躍できる多様な人材(人種、性別を越えて)の確保。 法定障がい者雇用率1.80%を維持する(国内グループ) 多様な人材が活躍、継続就業できる制度の導入、運営、職場環境の構築。
<ul style="list-style-type: none"> キャリアプラン提示、研修によるサポートを継続実施した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 世界の市場を攻略できる人材の育成と体制の構築。 グローバル人材育成制度の運用を継続するとともに、新たな若手の海外研修制度の導入を行う。 グローバルグレーディングを導入、ロームグループ全体の標準化を推進する。
<ul style="list-style-type: none"> ロームにおいて休業災害発生件数ゼロを達成した(17年間連続)。 ロームグループ国内外関係会社の労働災害指標の実績数値を開示した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害発生件数ゼロを目指し、安全衛生管理を徹底する。
<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量を前年度実績から8.3%削減した。 CO₂排出量原単位を前年度実績から4.0%削減した。 PFCS、SF6排出量を1995年度実績から62.0%削減した。 オフィス部門CO₂排出量を2009年度実績から7.0%削減した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量を2010年度実績より7%削減する。 CO₂排出量原単位を2010年度実績より9%削減する。 温室効果ガス(PFCs、SF6等)排出量を1995年度実績より43%削減する。
<ul style="list-style-type: none"> 売上高に占める環境配慮型製品の割合を50.6%にした。 物流のCO₂排出量原単位が前年度実績から4.5%増加した。 	△	<ul style="list-style-type: none"> バリューチェーンCO₂を把握するための仕組みを構築する。 売上高に占める環境配慮型製品の割合を60%にする。
<ul style="list-style-type: none"> 化学薬品取扱量[自主削減物質]を2009年度実績から6.2%削減した。 PRTR対象物質取扱量原単位が前年度実績から2.5%増加した。 VOC排出量を2000年度実績から35.5%削減した。 	△	<ul style="list-style-type: none"> PRTR対象物質取扱量原単位を2010年度実績より1%削減する。 VOC排出量を2000年度実績より38%削減する。
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量原単位(国内)を前年度実績から6.3%削減した。 廃棄物排出量原単位(海外)が前年度実績から3.9%削減した。 水の投入量を前年度実績から3.0%削減した。 国内連結でゼロエミッションを維持した。(99.95%) 	○	<ul style="list-style-type: none"> 海外連結で廃棄物排出量原単位を2010年度実績より2%削減する。 水の投入量を2010年度実績より2%削減する。 国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位を4%削減する。
<ul style="list-style-type: none"> 京都市内の小学校で環境学習授業を計5校8回実施した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 環境学習授業を継続実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 不使用/使用量遵守を継続した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ガイドライン指定物質の不使用/使用量遵守を継続する。
<ul style="list-style-type: none"> 「コンプライアンス強化月間」をロームおよびロームグループ国内関係会社で展開した。 新入社員～新任管理職へのコンプライアンス研修を継続実施した。 国内、海外にお取引先さま向けコンプライアンス・ホットラインを設置した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 「コンプライアンス強化月間」をロームグループ海外関係会社へ展開する。 階層別コンプライアンス教育を継続実施する。 ロームグループ海外関係会社でのコンプライアンス教育啓蒙の支援を行う。 社員向け「Legal e-learning」を展開する。 国連グローバル・コンパクト、ISO26000を踏まえた行動指針の改定を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 取引基本契約書にEICC基準遵守要請を追加した。 お取引先さまから「紛争鉱物不使用同意書」を回収した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> EICCに準拠した「CSR活動自己評価表」をお取引先さまに配布して遵守状況を確認し、必要に応じて改善指導などを実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 「贈収賄防止管理規定」を制定し、ロームおよびロームグループ全社に発信した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 階層別研修などで贈収賄防止に関する教育を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ローム全社員を対象としたオンラインでの情報セキュリティトレーニングを実施した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの情報セキュリティトレーニングを継続実施する。 トレーニング受講者の理解度などを踏まえたコンテンツ充実を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 品質問題の真因対策を4M[MAN(人)、MACHINE(設備)、MATERIAL(材料)、METHOD(方法)]の観点から分析し、予防処置を含めた改善活動を実施した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 品質問題の徹底した分析と継続的な改善活動を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 大幅な省エネを実現する「フルSiC」パワーモジュールの量産を開始した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> SiCパワーデバイスなどの省エネ製品の販売活動を推進する。 「省エネ」などの社会課題解決に貢献する製品の開発を推進する。
<ul style="list-style-type: none"> 大規模自然災害などに備えた事業継続マネジメント(BCM)の観点も踏まえたCSR調達に着手した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> BCMの観点も踏まえたCSR調達を推進する。
<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災被災地支援コンサートへの助成を含む公益財団法人ロームミュージックファンデーションの事業を支援した。(同財団事業に対し、京都府文化賞特別功労賞 第30回記念特別賞を受賞) 地元京都の京都市交響楽団演奏会他、多くのコンサートへの協賛を実施した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 音楽文化に関する支援を継続する。
<ul style="list-style-type: none"> タイの洪水、フィリピンや和歌山県の台風被害などの復興支援のための寄付を実施した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 社会のニーズを捉えた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。
<ul style="list-style-type: none"> 省エネLED電球を東日本大震災被災地や地元イベント(京都・東山花灯路など)に寄贈した。 日本、米国、中国で産官学共同研究を進めた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。 NGO・NPOと協働による社会貢献活動を検討する。

経営品質の革新

評価基準: ○ 目標・計画を達成 △ 目標・計画と実績に軽微なずれが生じた × 目標・計画と実績に大幅なずれが生じた

ローム・スピリット——若手音楽家の育成

音楽文化への貢献

優れた音楽は人と人をつなぎ、芸術と文化の可能性を実感させてくれます。

ロームは、若き才能を育み、音楽というすばらしい世界を通じて豊かな文化を創造するために幅広い活動に取り組んでいます。

若手音楽家の成長を支援

ロームでは、1965年の音楽書籍出版に始まり、1989年に開始したコンサートの開催・支援など、幅広い音楽支援活動を展開しています。

2000年からは、「若い音楽家を育てたい」という小澤征爾氏の熱い思いに賛同して開始した「小澤征爾音楽塾」への協賛も続けており、2011年は、9月4日に北京、9月11日に上海で公演された「オーケストラ・プロジェクト」の若手音楽家への教育プロジェクトを支援しました。

公益財団法人

ローム ミュージック ファンデーション

継続的に音楽文化の普及、発展に寄与することを目的に、1991年に設立した「公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション」は、音楽を学ぶ学生に対する奨学援助や、音楽活動の開催や助成などに取り組んでいます。2011年度は、総事業費13億213万円のもと、

100名の奨学生に対して総額2億7,030万円を給付しました。過去の奨学生の中からは、樫本大進氏(ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター)や下野竜也氏(読売日本交響楽団正指揮者)など現在活躍する音楽家を多数輩出しています。また、世界で活躍するプロ音楽家を育成するための「音楽セミナー」や、国際交流と若手音楽家育成を目的とした「京都・国際音楽学生フェスティバル」の開催、音楽に関する公演や研究などへの助成も行っています。

2011年度は、東日本大震災で被災された皆さまに、音楽で明るい希望を持っていただきたいという思いから、被災地でのコンサートを支援しました。全国27団体のオーケストラや吹奏楽団により、75カ所85公演が開催され約25,000人の方々に心温まる音楽をお届けしました。



小澤征爾音楽塾公演 京都市交響楽団演奏会



音楽セミナー(指揮者クラス)(撮影 佐々木卓男)



京都・国際音楽学生フェスティバル(撮影 佐々木卓男)



被災地支援コンサート(宮城県 名取市)

会社情報

会社概要

商号 ローム株式会社 / ROHM Co., Ltd.
 本社所在地 〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21
 TEL (075)311-2121 FAX(075)315-0172
 設立年月日 1958(昭和33)年9月17日
 資本金 86,969百万円(2012年3月31日現在)
 代表者 代表取締役社長 / 澤村 諭
 売上高 連結 304,652百万円(2012年3月期)

ロームグループの主な生産品目

LSI

- EEPROM
- オペアンプ・コンパレータ
- リセットIC
- クロックジェネレータIC
- アナログスイッチ/ロジックIC
- D/Aコンバータ
- センサIC
- リニアレギュレータ
- スイッチングレギュレータ
- パワーマネジメントLSI
- 車載レギュレータ
- モータドライバ
- LED/LCDドライバ
- 情報機器 / インタフェース用LSI
- 映像用LSI
- オーディオ用LSI
- ローパワー マイクロコントローラ
- 音声合成LSI
- P2ROM
- 表示用ドライバ
- 電池監視IC

個別半導体

- トランジスタ
- ダイオード
- SiCパワーデバイス

光半導体

- LED
- 半導体レーザ
- 光センサ

電子部品

- 抵抗器
- タンタルコンデンサ

モジュール

- パワーモジュール
- コンタクトイメージセンサヘッド
- サーマルプリントヘッド
- LED照明
- LEDディスプレイ
- IrDA赤外線通信モジュール
- リモコン受光モジュール

半導体応用製品

- 加速度センサ
- ジャイロセンサ

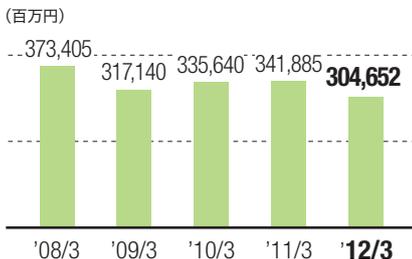
医療機器

- 臨床診断用分析装置
- 臨床検査用チップ

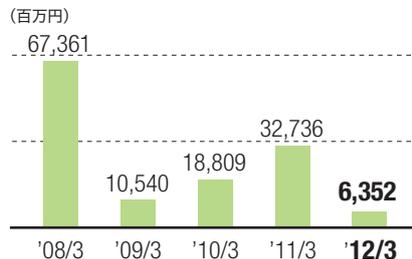
会社組織図



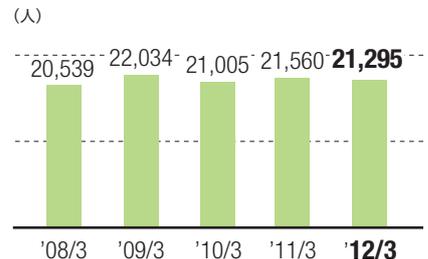
売上高



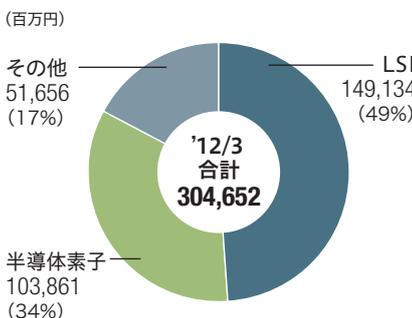
営業利益



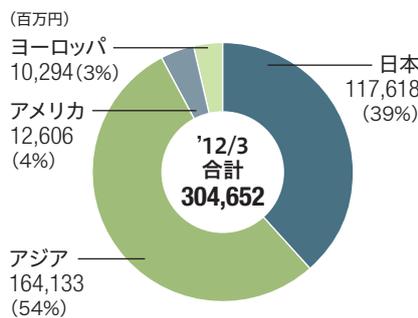
社員数



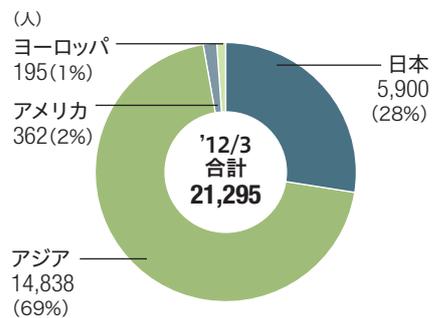
事業別売上高



地域別売上高



地域別社員数



会社情報

ロームグループ概要

JAPAN

- 営業拠点 11拠点
- 生産拠点 10拠点
- 開発拠点 4拠点
- QAセンター 2拠点

ASIA

- 営業拠点 37拠点
- 生産拠点 9拠点
- 開発拠点 4拠点
- QAセンター 6拠点

EUROPE

- 営業拠点 10拠点
- 生産拠点 1拠点
- 開発拠点 1拠点
- QAセンター 1拠点

AMERICAS

- 営業拠点 12拠点
- 生産拠点 1拠点
- 開発拠点 2拠点
- QAセンター 1拠点

※ 2012年3月末時点

国内ロームグループ

営業拠点

国内営業本部

横浜
〒222-8575 横浜市港北区新横浜2-4-8
ローム新横浜駅前ビル
TEL:(045)476-2121
FAX:(045)476-2500

東京

〒104-0033 東京都中央区新川1-17-21
茅場町ファーストビル4階
TEL:(03)6280-0820
FAX:(03)6280-0850

西東京

〒192-0046 東京都八王子市明神町
3-20-6 八王子ファーストスクエア8階
TEL:(042)648-7821
FAX:(042)648-7823

京都

〒600-8216 京都市下京区塩小路通
烏丸西入東塩小路町579-32
ローム京都駅前ビル
TEL:(075)365-1077
FAX:(075)365-1079

名古屋

〒451-0045 名古屋市西区名駅2-27-8
名古屋プライムセントラルタワー14階
TEL:(052)581-8521
FAX:(052)561-2173

高崎

〒370-0841 群馬県高崎市栄町16-11
高崎イーストタワー12階
TEL:(027)310-7111
FAX:(027)310-7114

仙台

〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区
榴岡4-12-12 MB小田急ビル8階
TEL:(022)295-3011
FAX:(022)295-3012

水戸

〒310-0026 茨城県水戸市泉町1-1-4
水戸フコク生命ビル8階
TEL:(029)300-0585
FAX:(029)300-0588

松本

〒390-0811 長野県松本市中央1-4-20
日本生命松本駅前ビル5階
TEL:(0263)34-8601
FAX:(0263)34-8603

広島

〒739-0015 広島県東広島市
西条栄町10-30 東広島Sea Place5階
TEL:(082)423-8153
FAX:(082)423-8154

福岡

〒812-0013 福岡県福岡市博多区
博多駅東2-1-23 サニックス博多ビル3階
TEL:(092)483-3496
FAX:(092)483-3497

中国営業本部

〒600-8216 京都市下京区塩小路通
烏丸西入東塩小路町579-32
ローム京都駅前ビル
TEL:(075)365-1216
FAX:(075)365-1226

アジア営業本部

〒600-8216 京都市下京区塩小路通
烏丸西入東塩小路町579-32
ローム京都駅前ビル
TEL:(075)365-1217
FAX:(075)365-1227

欧米営業本部

〒600-8216 京都市下京区塩小路通
烏丸西入東塩小路町579-32
ローム京都駅前ビル
TEL:(075)365-1218
FAX:(075)365-1228

開発拠点

京都テクノロジーセンター(本社)

〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21
TEL:(075)311-2121
FAX:(075)314-6559

京都テクノロジーセンター(京都駅前)

〒600-8216 京都市下京区塩小路通
烏丸西入東塩小路町579-32
ローム京都駅前ビル
TEL:(075)365-1077
FAX:(075)365-1079

横浜テクノロジーセンター

〒222-8575 横浜市港北区新横浜2-4-8
ローム新横浜駅前ビル
TEL:(045)476-2131
FAX:(045)476-2128

名古屋デザインセンター

〒451-0045 名古屋市西区名駅2-27-8
名古屋プライムセントラルタワー14階
TEL:(052)581-0185
FAX:(052)581-0187

生産拠点



ローム浜松株式会社

〒435-0038 浜松市南区三和町10
TEL:(053)468-1000
FAX:(053)468-1195
主な生産品目/LSI, LED



ロームつくば株式会社

〒300-3293 茨城県つくば市北原10
TEL:(029)877-1010
FAX:(029)877-1156
主な生産品目/トランジスタ、ダイオード、SiC



ローム・ワコー株式会社

〒714-8585 岡山県笠岡市富岡100
TEL:(0865)67-0111
FAX:(0865)67-2551
主な生産品目/LSI、ダイオード



ローム・アポロ株式会社

〒834-0111 福岡県八女郡広川町
大字日吉1164-2
TEL:(0943)32-3000
FAX:(0943)32-6180
主な生産品目/LSI、トランジスタ、タンタル
コンデンサ、SiC、LED照明



ローム・メカテック株式会社

〒621-0011 京都府亀岡市大井町
土田3-6-1
TEL:(0771)25-4717
FAX:(0771)25-4707
主な生産品目/金型、リードフレーム



ラビセセミコンダクタ株式会社

〒193-8550 東京都八王子市
東浅川町550-1
TEL:(042)663-1111
FAX:(042)666-7213
主な生産品目/LSI、光コンポーネント



ラビセセミコンダクタ宮城株式会社

〒981-3603 宮城県黒川郡大衡村
沖の平1番
TEL:(022)345-1211
FAX:(022)345-1310
主な生産品目/LSI



ラビセセミコンダクタ宮崎株式会社

〒889-1695 宮城県宮崎市清武町
木原727番地
TEL:(0985)85-5111
FAX:(0985)85-5143
主な生産品目/LSI



アグレット株式会社

〒664-0845 兵庫県伊丹市東有岡
2丁目16番地
TEL:(072)770-8060
FAX:(072)780-2024
主な生産品目/LED照明器具等

物流拠点・その他

ローム・ロジステック株式会社

〒719-0234 岡山県浅口市
鴨方町益坂75
TEL:(0865)44-3181
FAX:(0865)44-3185

成田技研株式会社

〒661-0033 兵庫県尼崎市
南武庫之荘1-29-13
TEL:(06)6433-0410
FAX:(06)6433-0480

海外ロームグループ

営業拠点

AMERICA

ROHM Semiconductor U.S.A., LLC

6815 Flanders Drive, Suite 150,
San Diego, CA 92121 U.S.A.
TEL: +1-858-625-3600
FAX: +1-858-625-3640

ROHM Semiconductor do Brasil Ltda.

Rua Dr.Candido Espinheira, no.396,
12th floor, rooms 123 and 124,
bairro Perdizes, Sao Paulo SP
05004-000 Brasil
TEL:+55-11-3539-6320
FAX:+55-11-2892-5697

EUROPE

ROHM Semiconductor GmbH

Karl-Arnold-Straße 15, 47877
Willich-Munchheide Germany
TEL:+49-2154-9210
FAX:+49-2154-921400

ASIA

ROHM Semiconductor Korea Corporation

371-11 Gasan-dong, Gumcheon-gu,
Seoul 153-803 Korea
TEL: +82-2-8182-7000
FAX: +82-2-8182-715

ROHM Semiconductor Trading (Dalian) Co., Ltd.

1201 Swiss Hotel, 21 Wuhui Road,
Zhong Shan District, Dalian
116001 China
TEL: +86-411-8230-8549
FAX: +86-411-8230-8537

ROHM Semiconductor (Shanghai) Co., Ltd.

28F UNITED PLAZA, 1468 Nanjing
Road West, Shanghai 200040 China
TEL: +86-21-6279-2727
FAX: +86-21-6247-2066

ROHM Semiconductor (Shenzhen) Co., Ltd.

Room 02B-03 5/F Tower Two,
Kerry Plaza, 1 Zhongxinsi Road,
Futian, Shenzhen 518034 China
TEL: +86-755-8307-3008
FAX: +86-755-8307-3003

ROHM Semiconductor Hong Kong Co., Ltd.

Room 1402-10 Tower 1, Silvercord,
30 Canton Road, Tsimshatsui,
Kowloon, Hong Kong
TEL: +852-2740-6262
FAX: +852-2375-8971

ROHM Semiconductor Taiwan Co., Ltd.

11F No.6 Sec.3 Min Chuan E. Road,
Taipei, Taiwan
TEL: +886-2-2500-6956
FAX: +886-2-2503-2869

ROHM Semiconductor Singapore Pte. Ltd.

9 Temasek Boulevard
#21-01 Suntec Tower Two,
Singapore, 038989
TEL: +65-6332-2322
FAX: +65-6332-5662

ROHM Semiconductor Philippines Corporation

Unit 4B Citibank-Frabelle Building,
Madrigal Business Park,
Alabang-Zapote Road,
Muntinlupa City 1770 Philippines
TEL: +63-2-807-6872
FAX: +63-2-809-1568

ROHM Semiconductor (Thailand) Co., Ltd.

11th Floor GPF Withthayu Towers A,
93/1 Wireless Road, Lumpini,
Pathumwan, Bangkok 10330 Thailand
TEL: +66-2-254-4890
FAX: +66-2-256-6334

ROHM Semiconductor Malaysia Sdn. Bhd.

Suite 2.2 Level2 MENERA AXIS
NO.2 Jalan 51A/223, 46100,
Petaling Jaya, Malaysia
TEL: +60-3-7958-8355
FAX: +60-3-7958-8377

ROHM Semiconductor India Pvt. Ltd.

Unit 103, 1st Floor Sigma Wing,
Raheja-Towers, 177 Anna Salai,
Chennai 600002, Tamil Nadu, India
TEL: +91-44-4352-0008
FAX: +91-44-4352-0003

開発拠点

America Design Center (San Diego)

6815 Flanders Drive, Suite 150,
San Diego, CA 92121 U.S.A.
TEL: +1-858-625-3660
FAX: +1-858-625-3616

America Design Center (Sunnyvale)

785 N. Mary Avenue, Suite 120,
Sunnyvale, CA 94085 U.S.A.
TEL: +1-408-720-1900
FAX: +1-408-720-1918

Europe Design Center

Karl-Arnold-Straße 15, 47877
Willich-Munchheide Germany
TEL:+49-2154-9210
FAX:+49-2154-921400

Korea Design Center

371-11 Gasan-Dong, Gumcheon-gu,
Seoul 153-803, Korea
TEL:+82-2-8182-695
FAX:+82-2-8182-789

Shanghai Design Center

25F UNITED PLAZA, 1468 Nanjing
Road West, Shanghai 200040 China
TEL:+86-21-6279-2727
FAX:+86-21-6247-2067

Shenzhen Design Center

Room 02B-03 5/F Tower Two,
Kerry Plaza, 1 Zhongxinsi Road,
Futian, Shenzhen 518034 China
TEL: +86-755-8307-3008
FAX: +86-755-8307-3003

Taiwan Design Center

10F No.6 Sec.3 Min Chuan E. Road,
Taipei, Taiwan
TEL:+886-2-2500-6976
FAX:+886-2-2503-2869

生産拠点



ROHM Korea Corporation

371-11 Gasan-Dong, Guemcheon-gu,
Seoul 153-803, Korea
TEL:+82-2-8182-600
FAX:+82-2-837-0039
主な生産品目/LSI、トランジスタ、
ダイオード



ROHM Electronics Philippines, Inc.

People's Technology Complex
Special Economic Zone,
Carmona,Cavite 4116 Philippines
TEL:+63-2-894-1536
FAX:+63-2-894-1544
主な生産品目/LSI、トランジスタ、
ダイオード、抵抗器



ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.

101/94, 102 Navanakorn Industrial
Zone, Moo 20, Phaholyothin Road,
Tambol Khlong-Nueng, Amphur
Khlong-Luog, Pathumthani
12120 Thailand
TEL:+66-2-909-7100
FAX:+66-2-909-7744
主な生産品目/LSI、トランジスタ、
ダイオード、抵抗器、タンタルコンデンサ



ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd.

No.7, Weisan Road, Micro-electronics
Industrial Park, Jingang Highway,
Xiqing District, Tianjin 300385 China
TEL:+86-22-8398-9000
FAX:+86-22-8398-9002
主な生産品目/トランジスタ、ダイオード、
LED、半導体レーザ、LEDディスプレイ、
光センサ



ROHM Electronics Dalian Co., Ltd.

No.20 Four Street East & North,
Dalian Economic & Technical
Development Zone, Dalian
116600 China
TEL:+86-411-8762-0001
FAX:+86-411-8762-0101
主な生産品目/パワーモジュール、
サーマルプリントヘッド、
コンタクトイメージセンサヘッド、
フォトリンクモジュール、LED照明、
光センサ、LEDディスプレイ



ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.

Lot 1320 Kawasan Perindustrian,
Pengkalan Chepa II, Padang Tembak,
16100 Kota Bharu, Kelantan, Malaysia
TEL:+60 (9) 7741500
FAX:+60 (9) 7741540
主な生産品目/ダイオード、LED



ROHM Mechatech Philippines, Inc.

People's Technology Complex
Special Economic Zone, Carmona,
Cavite 4116 Philippines
TEL:+63-46-430-2281
FAX:+63-46-430-2282
主な生産品目/金型、リードフレーム



ROHM Mechatech (Thailand) Co., Ltd.

102/2 Navanakorn Industrial Zone,
Moo 20, Phaholyothin Road, Tambol
Khlong-Nueng, Amphur Khlong-Luog,
Pathumthani 12120 Thailand
TEL:+66-2-908-7271~5
FAX:+66-2-908-7270
主な生産品目/金型、リードフレーム



ROHM Mechatech (Tianjin) Co., Ltd.

No.21, 2nd Saida Road, Xiqing
Economic Development Area,
Tianjin 300385 China
TEL:+86-22-2388-8585
FAX:+86-22-2388-8586
主な生産品目/金型、リードフレーム



Kionix, Inc.

36 Thornwood Drive, Ithaca,
NY 14850 U.S.A.
TEL:+1-607-257-1080
FAX:+1-607-257-1146
主な生産品目/MEMSセンサ



SiCrystal AG

Thurn-und-Taxis-Strasse 20 90411
Nuremberg Germany
TEL:+49-911-8177599-0
FAX:+49-911-8177599-100
主な生産品目/SiCウエハ